（社）日本ウエイトリフティング協会
Japan Weightlifting Association

ウエイトリフティング

No. 20

（社）日本ウエイトリフティング協会会報

1980

ウエイトリフティング

№20　1980

目　次

◇ １９７９年アジア選手権大会 …… 3
◇ アジア選手権大会に思う …… 4
◇ 昭和５４年度日本記録表 …… 15
◇ 昭和５４年度大学公認記録表 …… 17
◇ 昭和５４年度高校公認記録表 …… 18
◇ 昭和５４年度全日本十傑表 …… 19
◇ 昭和５４年度全日本ジュニア十傑表 …… 22
◇ 第３８回ヨーロッパ選手権大会 …… 25
◇ １９７９年パンノニア大会 …… 28
◇ スパルタキアード大会に参加して（菊地）…… 34
◇ 〃　〃　（湯地）…… 37
◇ 安東熊夫氏御逝去 …… 39
◇ 第２５回全国高校総体（インタハイ） …… 43
◇ 第２３回全関東選手権大会 …… 50
◇ 第１回日・韓ユース大会 …… 51
◇ 第３回東日本学生選手権 …… 52
◇ 昭和５５年度日程表 …… 53

1979年アジア ウェイトリフティング選手権大会

写真左　小宮山重四郎会長
　　右　アヤンIWF事務局長

１９７９年アジアウエイトリフティグ選手権大会は
８月15日～17日まで３日間にわたり，東京・渋谷の岸記念体育会館において，
日本・韓国・中国・北朝鮮・インドネシア・パキスタン・レバノン・タイ・イラン・イラク・シンガポールの計11ケ国71名の各国代表選手によって盛大に開催された。

１９７９年アジア選手権大会

(1) 開催に到るまでの経過

１９７６年４月，バンコクにおける第７回アジア選手権大会に併せて開催されたアジアウエイトリフティング連盟（ＡＷＦ）総会に於て，第８回標記大会をイラクが開催申請を提案し満場一致で諒承された。同時に総会の総意として１９７９年同大会を日本で開催するよう要請された。これを受けて５１年度当協会理事会においてＡＷＦ総会要請であるアジア選手権大会を日本で開催する旨決定され，昨年８月開催する運びになった。しかし，５１年度理事会決定は見通しを持たない願望的決定のため，この間に発生した中東の国際的緊張及び財政問題等，いろいろ多岐にわたって問題が算積したが最終的に５４年度理事会の鋭意検討，参加国の問題についても誠意をつくした前向きの姿勢によって克服し，韓国人民共和国，インドネシア，イラン，イラク，レバノン，パキスタン，韓国，中国，シンガポール，タイ，日本の11ケ国，78選手の参加によって成功りに終了した。

(2) アジア連盟総会

東京における同大会は１９７８年バンコク市で開催されたアジア大会におけるＡＷＦ総会で，イラク連盟の提案によるイスラエル連盟の除名に関して３時間におよぶ激論の結果，イスラエル選手の参加について開催国の組織委員会に一任するという，きわめて重大な課題のもとに開催された。総会出席国は参加選手団国に加えてイスラエルの12ケ国であったが「イスラエルの出席者がイスラエルＷＬ連盟の信任状を持ってない」という理由でイラク代表より退席を要求され，ＡＷＦ定款にもとずく議長の決裁によって退席のやむなきにいたった。この様に総会の冒頭からはらんを含んでいたが，以後は整然と進行された。総会議事録の要旨は以下の通りである。

尚，冒頭に故小宮山英蔵会長のご逝去を悼み，二分間の黙禱の後総会は開催された。

(イ) ＡＷＦ理事会報告

① 記録委員会を設置

委員はH.Tamray（イラン）S.Singh（シンガポール）Choi Chang Sin（韓国）M.Alagwan（レバノン）○W.Yassin（イラク）八木勇蔵（日本）A.B.Vallimon（フィリッピン）（○印　委員長）

② アジアジュニア記録の承認及び修正

③ １９７９年アジアジュニア選手権大会

標記大会がフィリッピンで開催される予定であったが，国の都合で開催を返上した。

(ロ) 総会議題

① モスクワにおいてＩＷＦ総会の前にＡＷＦ理事会を開催することを決定した。

② １９８０年アジア選手権大会

韓国が立候補し，入国査証について意見が交換されたが，１９８０年４月又は５月に同国において開催する旨決定した。

③ レフリー及びコーチ研修会

１９８０年１月標記研修会を韓国で開催する。

④　ジュリー及びレフリーの指名

⑤　選手の確認

アジア選手権大会に思う

90 kg級　佐　藤　光　正

昭和54年８月15日より８月17日の３日間，岸記念体育会館を会場として開催されるアジア選手権大会に参加するにあたり私は，一週間前より調整合宿入りをして大会に備えた。

試合が近づき，ぞくぞくと他国の選手が集まってくるにつれて，緊張感が高まり練習に一段と熱が入った。

そして，大会初日を迎え北朝鮮・中国選手の活躍は目を見張るものがあり，日本選手は，苦しい試合運びとなったが，２日目に大望の日の丸が上がりチームのムードも盛りあがってきた。いよいよ自分の試合の日が次の日に迫った。私は，アジア選手権初出場ということでその夜は緊張感のあまり眠れなく皇居の回りを散歩しながら，自分の心を落ち着かせようと体操をしたり，深呼吸したりして緊張感を取り除き宿舎に戻った。この前夜の緊張感との戦いが一番つらいと感じている。

そして，90kg級の試合が始まり，スナッチ種目では145kgに成功し２位との差が５kgという結果で終りジャーク種目に入った。ジャークのアップでは，優勝という２文字が頭からはなれず，雑なウォーミングアップとなり早く試合が終りたいという気持が，１回目の試技の失敗となり，次の試技までの間にコーチの先生方からいろいろなアドバイスを受けたが，１回目の失敗のことが頭からはなれず，コーチの言葉はただ耳にするだけであせりの気持だけがやるかたなく残っていた。２回目のコールがされ，絶対に挙げなければならないという気持が一杯でバランスを崩してしまい，またもや失敗してしまいました。この２つの試技の失敗は雑に行なった結果であり，自分の心に隙があったからだと思います。

この時くらい第１試技の大切さというものを痛感させられたことは，今までには一度もなかった。残された最後の試技には成功させないという気持よりも「いつもやっているんだ。思いきりやろう」という気持だけで，幸いにも成功につながり日本の団体優勝に微力ながら貢献できたことを自己反省をしつつ喜んでいます。

よくこんな話を聞くことがある。それは，「無欲になって臨め」という言葉であるが，実際のところなかなか出来ないものだと思う。私は，「無欲で臨め」とは，毎日毎日苦しい練習に打ち勝っている者が，この重量なら挙がっても当然なんだという気持で試技に臨むことが無ではないかと思う。

毎日苦しい練習を積んで，スタート重量は必ず成功させるように日頃から正しい練習に励むことが大切であろう。

最後に，アジアで一番の力持めざしてジャークでの200kg，スナッチでの160kgめざして練習に取り組んでいきたいと思います。

◇1979年（第11回）アジアウエイトリフティング選手権大会

（54年8月15日～17日　東京・岸記念体育会館）

52 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	I.J.GWAN	北朝鮮	51.7	230	95	135	3(1－2)
2	H.B.CHOL	〃	51.9	230	100	130	3(1－2)
3	T.WEIXONG	中国	51.85	227.5	100	127.5	5(3－2)
4	P.Y.BOX	韓国	51.5	207.5	90	117.5	4(2－2)
5	U.NASUTION	インドネシア	51.8	202.5	92.5	100	4(3－1)
6	M.ASLAM	パキスタン	51.8	187.5	82.5	105	3(2－1)
7	堀越　武	日本	51.7	0	97.5	0	

上位選手・日本選手試技内容　① GWAN＝S 95×100×100　J 130　135×140
② CHOL＝S 100×105×105　J 125　130×132.5　③ WEIXONG＝S 92.5　97.5　100
J×122.5　122.5　127.5　○堀越＝S×97.5　97.5×102.5　J×120×120×120

スナッチ			ジャーク		
1	WEIXONG	100	1	GWAN	135
2	CHOL	100	2	CHOL	130
3	堀越　武	97.5	3	WEIXONG	127.5

56 kg級

1	YANG.W.Y	北朝鮮	55.9	252.5	110	142.5	3(2－1)
2	安藤謙吉	日本	55.7	247.5	110	137.5	3(2－1)
3	F.NSSERI	イラン	55.8	247.5	107.5	140	3(1－2)
4	L.M.SOO	韓国	55.4	242.5	102.5	140	3(1－2)
5	M.MANZOOR	パキスタン	54.9	217.5	92.5	125	2(1－1)
	C.T.A.KIONG	インドネシア	55.7	0			

① YANG＝S 105×110　110　J 142.5×147.5×147.5　② 安藤＝S 105　110×112.5
J 137.5×142.5×142.5　③ NSSERI＝S×105×105　107.5　J 135　145×145
（注）YANG　特別試技　ジャーク4回目　152.5kg　世界新－失敗

スナッチ			ジャーク		
1	安藤謙吉	110	1	YANG	142.5
2	YANG	110	2	SOO	140
3	NSSERI	107.5	3	NSSERI	140

60 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	斎藤 隆	日本	59.55	265	112.5	152.5	3(1－2)
2	C.JIANCAI	中国	59.7	260	115	145	3(2－1)
3	S.S.RIM	北朝鮮	60	260	110	150	3(1－2)
4	S.E.NASUTION	インドネシア	59.3	240	107.5	132.5	3(2－1)
5	C.K.SIONG	シンガポール	59.7	240	105	135	2(1－1)
6	F.MATLOUB	イラク	59.65	237.5	105	132.5	2(1－1)
7	C.M.JAE	韓国	59.8	235	105	130	

① 斎藤＝S×112.5 112.5×117.5 J 147.5×152.5 152.5 ② JIANCAI＝S×110 110 115 J×145 145×150 ③ RIM＝S 110×115×115 J 145 150×152.5

（注） 斎藤 特別試技 ジャーク4回目 158.5 日本新－失敗

スナッチ

1	JIANCAI	115
2	斎藤 隆	112.5
3	RIM	110

ジャーク

1	斎藤 隆	152.5
2	RIM	150
3	JIANCAI	145

67.5 kg級

1	平井一正	日本	66.85	295	132.5	162.5	3(2－1)
2	Y.JIANGYUN	中国	66.85	292.5	125	167.5	5(2－3)
3	LI.G.J	北朝鮮	67.	290	130	160	3(2－1)
4	K.S.HO	韓国	65.7	270	120	150	2(1－1)
5	B.SUGIONO	インドネシア	66.7	255	115	140	3(2－1)
	W.LESTANTO	〃	67.4	0	117.5		

① 平井＝S×127.5 127.5 132.5 J 162.5×167.5×167.5 ② JIANGYUN＝S×120 120 125 J 160 165 167.5 ③ LI＝S 125 130×135 J×160 160×165

（注） 平井 特別試技 スナッチ 4回目 138kg 日本新－失敗
JIANGYUN 〃 ジャーク 〃 170kg 大会新－成功

スナッチ

1	平井一正	132.5
2	LI	130
3	JIANGYUN	125

ジャーク

1	JIANGYUN	167.5
2	平井一正	162.5
3	LI	160

75 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	M.TRABOULSI	レバノン	74.2	312.5	142.5	170	4(2−2)
2	角南保	日本	74.5	307.5	137.5	170	4(3−1)
3	L.SHUNZHU	中国	73.4	300	135	165	2(1−1)
4	C.S.YONG	韓国	73.2	287.5	125	162.5	3(1−2)
5	F.AHMED	イラク	74.5	280	125	155	3(1−2)
6	J.G.T.HIN	インドネシア	68.9	250	105	145	3(1−2)
	K.MOUSA	イラク	72.5	0	122.5	0	

●A.P.JAN(イラン), S.HALIMANA(インドネシア)

① TRABOULSI＝S 137.5 142.5×145 J 165 170×175 ② 角南＝S 130 135 137.5 J×170×170 170 ③ SHUNZHU＝S 135×140×140 J 165×170×170

スナッチ			ジャーク		
1	TRABOULSI	142.5	1	TRABOULSI	170
2	角南保	137.5	2	角南保	170
3	SHUNZHU	135	3	SHUNZHU	165

82.5 kg級

1	佐藤薫	日本	81.5	310	140	170	4(3−1)
2	M.ASHRAFI	イラン	79.2	302.5	130	172.5	3(2−1)
3	T.HASOON	イラク	80	302.5	135	167.5	4(2−2)
4	C.FUXIANG	中国	80.3	295	125	170	3(1−2)
5	RYU.DI	北朝鮮	80.6	295	135	160	2(1−1)
6	LK.HYUN	韓国	82.2	295	125	170	4(1−3)
7	I.ROSADI	インドネシア	77.5	285	125	160	
	L.S.SUL	韓国	80	0	120	0	
	H.HALMANA	インドネシア	75.5	0	0	135	

① 佐藤＝S 132.5 137.5 140 J×170 170×175 ② ASHRAFI＝S×125 125 130 J 172.5×180×180 ③ HASOON＝S 130×135 135 J×162.5 162.5 167.5

スナッチ			ジャーク		
1	佐藤薫	140	1	ASHRAFI	172.5
2	HASOON	135	2	FUXIANG	170
3	RYU	135	3	佐藤薫	170

90 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	佐藤光正	日本	86.9	322.5	145	177.5	2(1 1)
2	H.SHIHAB	イラク	87.2	305	135	170	5(2-3)
3	K.S.HOO	韓国	89.6	302.5	132.5	170	3(2 1)
4	Y.GUILIN	中国	87.6	292.5	132.5	160	2(1−1)
5	H.ALI	イラク	88.65	275	122.5	152.5	3(2−1)
6	SYAHRIL	インドネシア	82.9	260	105	155	2(1−1)

① 佐藤＝S 145×152.5×152.5 J×177.5×177.5 177.5 ② SHIHAB：S 130 135 ×137.5 J 160 165 170 ③ HOO＝S 127.5 132.5×135 J 170×175×175

（注） 佐藤 特別試技 スナッチ 4回目 152.5kg 日本新－失敗

スナッチ			ジャーク		
1	佐藤光正	145	1	佐藤光正	177.5
2	SHIHAB	135	2	SHIHAB	170
3	GUILIN	132.5	3	HOO	170

100 kg級

1	J.Y.AHN	韓国	92.25	330	150	180	2(1−1)
2	S.ZHENDONG	中国	99.4	312.5	137.5	175	3(2−1)
3	下坂義昭	日本	96.65	307.5	137.5	170	4(2−2)
4	R.FTOUNI	レバノン	98.2	295	130	165	2(1-1)
5	U.YOSTO	タイ	92.65	270	110	160	2(1−1)
6	E.SALAMA	イラク	97.15	270	120	150	2(1−1)
7	M.SABIR	パキスタン	99.25	267.5	117.5	150	
	T.ROUHANI	イラン	97.4	0	132.5	0	

① AHN＝S 140 145 150 J 180×185×185 ② ZHENDONG＝S 132.5 137.5 ×140 J 175×182.5×182.5 ③ 下坂＝S 132.5 137.5×140 J 165 170×175

スナッチ			ジャーク		
1	AHN	150	1	AHN	180
2	下坂義昭	137.5	2	ZHENDONG	175
3	ZHENDONG	137.5	3	下坂義昭	170

110 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	Y.HAIQNG	中国	108.	330	145	185	4(2-2)
2	M.A.K.ADIR	イラク	102.4	325	145	180	5(2-3)
3	H.KAREGARNEZHAD	イラン	109.7	320	140	180	3(2-1)
4	A.H JACK	韓国	100.2	300	130	170	3(1-2)
5	C.M.AMIN	パキスタン	100.2	295	130	165	4(2-2)
6	PAK.D.J	北朝鮮	100.1	292.5	127.5	165	2(1-1)
7	柴崎恒二	日本	100.2	290	125	165	
8	S.S.CMOPA	シンガポール	102.8	232.5	102.5	130	
	S.ZHENZHU	中国	100.1	0	0	167.5	

① HAIQNG＝S×140 140 145 J 180×185 185 ② ADIR＝S 135 140 145 J 175 180×185 ③ KAREGARNEZHAD＝S 135 140×142.5 J 180×187.5 キケン 柴崎＝S×125 125×130 J 165×172.5×172.5

スナッチ

1	ADIR	145
2	HAIQNG	145
3	KAREGARNEZHAD	140

ジャーク

1	HAIQNG	185
2	ADIR	180
3	KAREGANEZHAD	180

＋110 kg級

1	T.A.ADEED	イラク	125.7	317.5	137.5	180	4(1-3)
2	M.MANSOOR	〃	125.7	302.5	132.5	170	3(2-1)
3	杉本誠起	日本	111.2	290	130	160	3(2-1)
4	K.JAMIUDDIN	パキスタン	110.9	237.5	107.5	130	3(2-1)
5	G.WEIR	中国	110.1	0	0	165	

① ADEED＝S×137.5×137.5 137.5 J 170 175 180 ② MANSOOR＝S 127.5 132.5×137.5 J 170×182.5×182.5 ③ 杉本＝S 125×130 130 J 160×172.5×172.5

スナッチ

1	ADEED	137.5
2	MANSOOR	132.5
3	杉本誠起	130

ジャーク

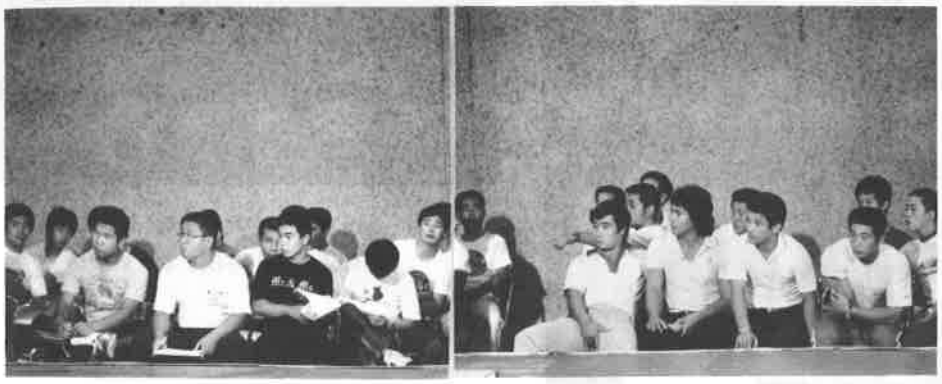
1	ADEED	180
2	MANSOOR	170
3	WEIR	165

◇国別特点表

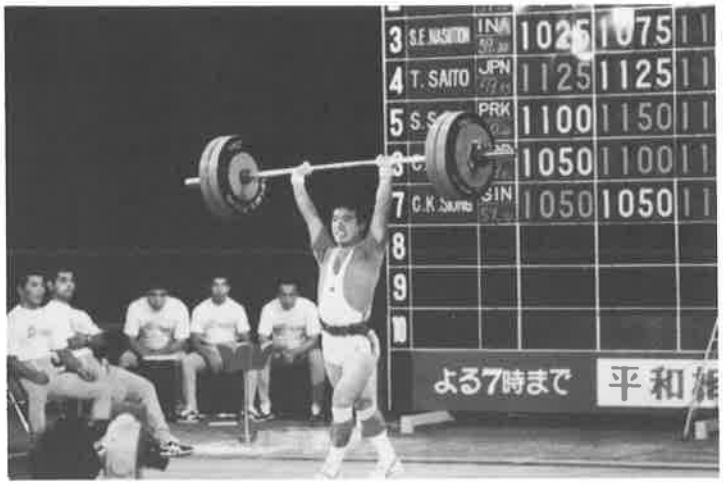
① 日本	261	② 中国	226	③ イラク	207
④ 韓国	197	⑤ 北朝鮮	174	⑥ インドネシア	114
⑦ イラン	83	⑧ パキスタン	82	⑨ レバノン	56
⑩ シンガポール	26	⑪ タイ	15		

◇メダル獲得数

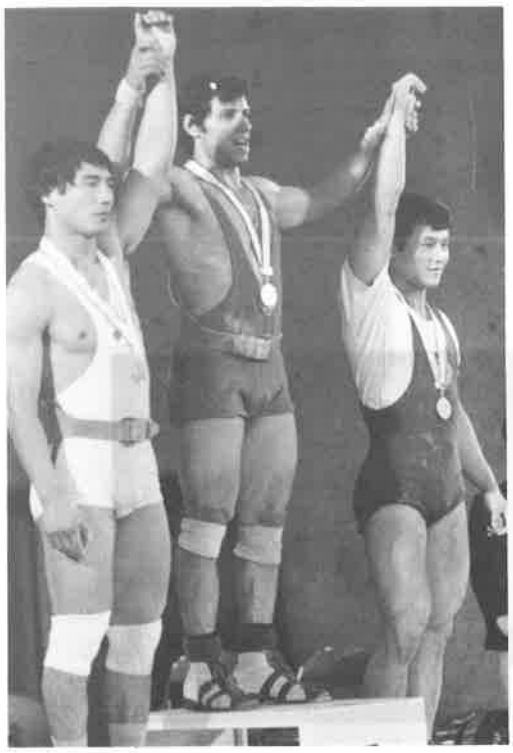
日	金	銀	銅	合計
日本	10	8	5	23
中国	5	5	11	21
イラク	4	9	1	14
北朝鮮	4	6	5	15
韓国	3	1	2	6
レバノン	3	—	—	3
イラン	1	1	6	8



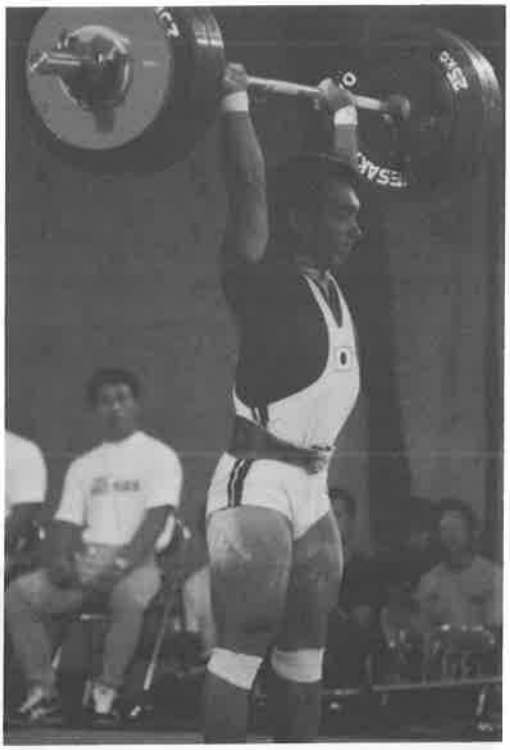
アジア大会観戦中のジュニア研修合宿のコーチ・選手



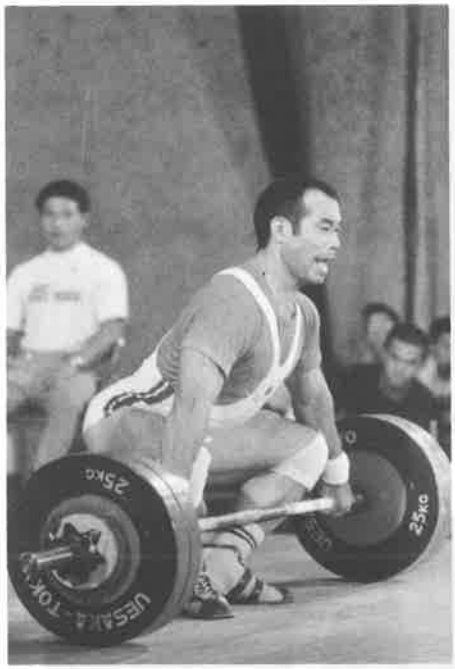
60kg級　斉藤選手
日本の第１号金メダル獲得



75kg級　角南選手は惜しく２位



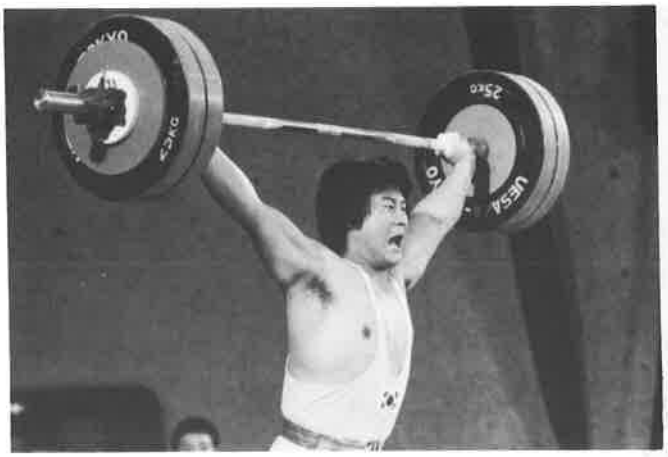
67.5 kg級　平井選手も
斉藤選手に引き続き堂々の優勝



82.5 kg級　佐藤(薫)選手

90kg級　佐藤(光)選手は
2位に大差をつけ優勝

100 kg級　下坂選手は3位入賞



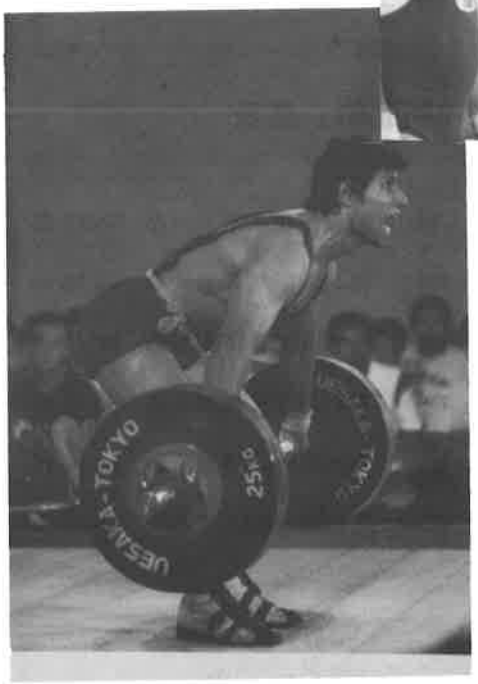
100kg級　韓国の安選手は最優秀選手に輝いた

110kg級の柴崎選手は７位に甘んじた

＋110kg級　杉本選手は３位入賞
優勝はイラクのアディード選手

（110㎏級　中国の楊選手はトータル330㎏で優勝）

110㎏級　選手紹介



75㎏級優勝のレバノンのトラボリジ選手は，ミュンヘンオリンピックでミドル級２位入賞をしている。

昭和５４年度（後期）日本新記録公認表

社団法人　日本ウエイトリフティング協会

階級	氏名	所属	記録		大会名	年月日
75 kg	福田輝彦	大津市勤労青少年ホームクラブ（滋賀）	スナッチ	145.5	第16回全日本社会人選手権大会	54. 11. 17
	福崎君夫	中央大学（岩手）	スナッチ	143	第34回国民体育大会	54. 10. 18
110kg	大川克弘	大阪府警（大阪）	スナッチ トータル	144 317.5	第34回国民体育大会	54. 10. 18
	大川克弘	大阪府警（大阪）	ジャーク	181	第16回全日本社会人選手権大会	54. 11. 18

昭和５４年度（後期）大学新記録公認表

52 kg	宮下日出海	大阪商業大学(鹿児島)	トータル	230	第25回全日本大学対抗	54. 11. 15
	小高正宏	日本体育大学(兵庫)	ジャーク	130	第14回日・韓親善大会	54. 12. 9
110kg	福崎君夫	中央大学（岩手）	スナッチ トータル	143 310	第34回国民体育大会	54. 10. 18

昭和５４年度（後期）高校新記録公認表

52 kg	原　徹	前橋育英高校(群馬)	スナッチ	98	前橋市民スポーツ祭	54. 11. 23
60 kg	難波謙二	羽黒工業高校(山形)	スナッチ	111	第34回国民体育大会	54. 10. 15
	砂岡良治	小山高校(栃木)	スナッチ	130	第1回日・韓高校競技会	54. 9. 2
82.5kg	砂岡良治	小山高校(栃木)	ジャーク	170	第34回国民体育大会	54. 10. 17
	砂岡良治	小山高校(栃木)	スナッチ トータル	135 300	第26回小山市秋季大会	54. 11. 10
90 kg	川口俊次	下関工業高校(山口)	スナッチ	123	第1回日・韓高校競技会	54. 9. 2

昭和５４年度日本公認最高記録表

○印　５４年度更新

社団法人　日本ウエイトリフティング協会（昭和５５年１月１日）

級	種目	記録	氏名	所属	年月日	大会名
52 kg	スナッチ	108	竹内　雅朝	埼玉県庁（埼玉）	50. 9. 15	第２９回世界選手権大会
	ジャーク	132.5	岩崎　賢二	藤岡高校・教（群馬）	53. 6. 24	第３８回全日本選手権大会
	トータル	235	竹内　雅朝	埼玉県庁（埼玉）	51. 4. 17	第３６回全日本選手権大会
56 kg	スナッチ	120.5	三木　功司	自衛隊体育学校（埼玉）	51. 10. 25	第３１回国民体育大会
	ジャーク	150	細谷　治朗	日本体育大学・教（東京）	52. 6. 11	第３７回全日本選手権大会
	トータル	257.5	安藤　謙吉	土岐高校・教（岐阜）	52. 6. 11	第３７回全日本選手権大会
60 kg	スナッチ	127.5	平井　一正	亀山高校・教（三重）	51. 10. 26	第３１回国民体育大会
	ジャーク	157.5	斉藤　隆	山添高校・教（山形）	51. 10. 26	第３１回国民体育大会
	トータル	282.5	平井　一正	亀山高校・教（三重）	51. 10. 26	第３１回国民体育大会
67.5kg	スナッチ	137.5	平井　一正	亀山高校・教（三重）	53. 6. 24	第３８回全日本選手権大会
	ジャーク	○170.5	島屋　八生	日本体育大学・研（東京）	54. 7. 18	１９７８年バンノニア大会
	トータル	307.5	平井　一正	亀山高校・教（三重）	53. 6. 24	第３８回全日本選手権大会
75 kg	スナッチ	○145.5	福田　輝彦	大津市勤労青少年ホームクラブ（滋賀）	54. 11. 17	第16回全日本社会人選手権大会
	ジャーク	178	角南　保	名古屋鉄道（愛知）	53. 11. 12	第15回全日本社会人選手権大会
	トータル	325	大内　仁	警視庁（東京）	42. 10. 18	メキシコ・プレオリンピック
82.5kg	スナッチ	152.5	大内　仁	警視庁（東京）	44. 9. 25	第２５回世界選手権大会
	ジャーク	185.5	吉田　建規	県央消防署（長崎）	52. 10. 5	第３２回国民体育大会
	トータル	335	大内　仁	警視庁（東京）	44. 9. 25	第２３回世界選手権大会
90 kg	スナッチ	150.5	佐藤　光正	日本体育大学（宮城）	53. 7. 9	第８回全日本学生東西対抗
	ジャーク	192.5	後藤　良一	後藤組（福島）	51. 11. 7	１９７６年日・中友好大会
	トータル	335	佐藤　光正	日本体育大学（宮城）	53. 7 9	第８回全日本学生東西対抗
100kg	スナッチ	○148	佐藤　光正	柴田農林高校・教（宮城）	54. 6. 24	第1回東北・北海道社会人大会
	ジャーク	192.5	後藤　良一	後藤組（福島）	52. 6. 12	第３７回全日本選手権大会
	トータル	332.5	後藤　良一	後藤組（福島）	51. 11. 23	第13回全日本社会人選手権大会
110kg	スナッチ	○144	大川　克弘	大阪府警（大阪）	54. 10. 18	第３４回国民体育大会
	ジャーク	○181	大川　克弘	大阪府警（大阪）	54. 11. 18	第16回全日本社会人選手権大会
	トータル	○317.5	大川　克弘	大阪府警（大阪）	54. 10. 18	第３４回国民体育大会
+110kg	スナッチ	137.5	西本　研一	徳島市民病院（徳島）	53. 10. 19	第３３回国民体育大会
	ジャーク	177.5	岩崎　雄二	警視庁（東京）	51. 4. 12	第７回アジア選手権大会
	トータル	310	岩崎　雄二	警視庁（東京）	52. 6. 5	第３０回都民体育大会

昭和５４年度大学公認最高記録表

○印　５４年度更新

社団法人　日本ウエイトリフティング協会（昭和５５年１月１日）

級	種目	記録	氏名	所属	年月日	大会名
52 kg	スナッチ	○107.5	宮下日出海	大阪商業大学(鹿児島)	54. 5. 26	第２９回全日本選手権大会
	ジャーク	○130	小高　正宏	日本体育大学(兵　庫)	54. 12. 9	第１４回日・韓親善大会
	トータル	○230	宮下日出海	大阪商業大学(鹿児島)	54. 11. 15	第２５回全日本大学対抗
56 kg	スナッチ	113.5	三木　功司	中央大学(徳　島)	43. 11. 15	第14回全日本学生選手権大会
	ジャーク	140	一ノ関史郎	法政大学(秋　田)	41. 10. 24	第２１回国民体育大会
	トータル	252.5	一ノ関史郎	法政大学(秋　田)	40. 10. 27	１９６５年世界選手権大会
60 kg	スナッチ	120	加藤　正雄	中京大学(愛　知)	45. 7. 4	第３０回全日本選手権大会
	ジャー	152.5	斉藤　隆	日本体育大学(山　形)	48. 10. 16	第２８回国民体育大会
	トータル	272.5	後藤　節哉	日本大学(熊　本)	49. 11. 23	第２０回全日本大学対抗
67.5kg	スナッチ	130	中田　高広	中京大学(岐　阜)	46. 11. 23	第10回西日本学生選手権大会
	ジャーク	167.5	加藤　正雄	中京大学(愛　知)	46. 6. 3	第１回全日本学生東西対抗
	トータル	287.5	加藤　正雄	中京大学(愛　知)	46. 7. 24	第３１回全日本選手権大会
75 kg	スナッチ	140	大内　仁	法政大学(福　島)	40. 11. 21	第11回全日本学生選手権大会
	ジャーク	172.5	角南　保	明治大学(岡　山)	45. 11. 8	第６回アジア大会代表選考会
	トータル	302.5	角南　保	明治大学(岡　山)	45. 9. 16	１９７０年世界選手権大会
82.5kg	スナッチ	137.5	大内　仁	法政大学(福島島)	39. 12. 13	第１０回全日本大学対抗
	ジャーク	○175	平岡　力	明治大学(静　岡)	54. 4. 27	第25回全日本学生選手権大会
	トータル	○305	平岡　力	明治大学(静　岡)	54. 4. 27	第25回全日本学生選手権大会
90 kg	スナッチ	150.5	佐藤　光正	日本体育大学(宮　城)	53. 7. 9	第８回全日本学生東西対抗
	ジャーク	185	佐藤　光正	日本体育大学(宮　城)	53. 7. 9	第８回全日本学生東西対抗
	トータル	335	佐藤　光正	日本体育大学(宮　城)	53. 7. 9	第８回全日本学生東西対抗
100kg	スナッチ	147.5	佐藤　光正	日本体育大学(宮　城)	53. 7. 23	第３３回国体宮城県予選会
	ジャーク	180	後藤　良一	中央大学(福　島)	46. 11. 14	第17回全日本学生選手権大会
	トータル	325	佐藤　光正	日本体育大学(宮　城)	53. 12. 14	第８回アジア大会
110kg	スナッチ	○143	福崎　君夫	中央大学(岩　手)	54. 10. 18	第３４回国民体育大会
	ジャーク	○170	福崎　君夫	中央大学(岩　手)	54. 4. 25	第25回全日本学生選手権大会
	トータル	○310	福崎　君夫	中央大学(岩　手)	54. 10. 18	第３４回国民体育大会

昭和５４年度高校公認最高記録表

○印　５４年度更新

昭社団法人　日本ウエイトリフティング協会（昭和５５年１月１日）

級	種目	記録	氏名	所属	年月日	大会名
52 kg	スナッチ	○98	原　徹	前橋育英高校（群馬）	54. 11. 23	前橋市民スポーツ祭
	ジャーク	122	今村　実	鎮西高校（熊本）	41. 10. 24	第２１回国民体育大会
	トータル	215	今村　実	鎮西高校（熊本）	41. 10. 24	第２１回国民体育大会
56 kg	スナッチ	105	市場　孝士	大阪産業大学高校（大阪）	53. 8. 27	第11回近畿高校選手権大会
	ジャーク	130	安藤　謙吉	土岐高校（岐阜）	43. 5. 26	東海４県選手権大会
	トータル	235	後藤　節哉	鎮西高校（熊本）	45. 10. 11	第２５回国民体育大会
60 kg	スナッチ	111	難波　謙二	羽黒工業高校（山形）	54. 10. 15	第３４回国民体育大会
	ジャーク	142.5	熊田　順一	大館桂城高校（秋田）	40. 10. 25	第２０回国民体育大会
	トータル	247.5	熊田　順一	大館桂城高校（秋田）	40. 10. 25	第２０回国民体育大会
67.5 kg	スナッチ	117.5	目黒　正男	三条工業高校（新潟）	49. 10. 22	第２９回国民体育大会
	ジャーク	150	熊田　順一	大館桂城高校（秋田）	41. 3. 27	第１０回秋田県選手権大会
	トータル	260	熊田　順一	大館桂城高校（秋田）	41. 3. 27	第１０回秋田県選手権大会
75 kg	スナッチ	122.5	小野　正	新居浜工業高校（愛媛）	49. 2. 24	愛媛県春季大会
	ジャーク	152.5	砂岡　良治	小山高校（栃木）	53. 8. 4	第25回全国高校総合体育大会
	トータル	270	宮城　政章	中央高校（沖縄）	53. 2. 5	第１回琉球新報杯争奪県高校選手権大会
82.5 kg	スナッチ	○135	砂岡　良治	小山高校（栃木）	54. 11. 10	第２６回小山市秋季大会
	ジャーク	○170	砂岡　良治	小山高校（栃木）	54. 10. 17	第３４回国民体育大会
	トータル	○300	砂岡　良治	小山高校（栃木）	54. 11. 10	第２６回小山市秋季大会
90 kg	スナッチ	○123	川口　俊次	下関工業高校（山口）	54. 9. 2	第１回日・韓高校競技会
	ジャーク	○160	砂岡　良治	小山高校（栃木）	54. 8. 26	第２３回全関東選手権大会
	トータル	○280	砂岡　良治	小山高校（栃木）	54. 8. 26	第２３回全関東選手権大会

昭和５４年度全日本十傑表

社団法人　日本ウエイトリフティング協会

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	ジャーク	トータル	大会名	年月日
	1	堀越　武	昭和アルミ（栃木）	105	125	230	全日本選手権	54. 5. 26
	2	岩崎　賢二	藤岡高校・教（群馬）	100	130	230	世界選手権	54. 11. 3
	3	高橋　雅朝	糸魚川高校・教（新潟）	105	125	230	〃	54. 11. 3
52	4	宮下日出海	大阪商業大学（鹿児島）	105	125	230	大学対抗	54. 11. 15
	5	小高　正宏	日本体育大学（兵庫）	100	130	230	日・韓親善	54. 12. 9
	6	小林　寛	三条市役所（新潟）	97.5	130	227.5	社会人選手権	54. 11. 16
kg	7	真鍋　和人	中央大学（愛媛）	100	120	220	国体	54. 10. 15
	8	善教　進	佐伯産業（広島）	92.5	120	212.5	全日本選手権	54. 5. 26
	9	西川　荘吾	法政大学（滋賀）	90	122.5	212.5	大学対抗	54. 11. 15
	10	牧野　吉伸	日本体育大学（岡山）	90	120	210	〃	54. 11. 15
					平均	223.25		
					（前年	219.50）		
	1	湯地　保雄	日本大学・研（東京）	110	137.5	247.5	全日本選手権	54. 5. 26
	2	安藤　謙吉	土岐高校・教（岐阜）	110	137.5	247.5	アジア選手権	54. 8. 15
	3	玉井　昇治	自営（静岡）	107.5	137.5	245	国体	54. 10. 15
56	4	細谷　治朗	日本体育大学・研（東京）	105	140	245	世界選手権	54. 11. 4
	5	高橋　力	名古屋電気高校・教（愛知）	102.5	137.5	240	全日本選手権	54. 5. 26
	6	椎名　彦晴	秋田経済大学・職（秋田）	105	135	240	国体	54. 10. 15
kg	7	市場　孝士	南晃工業（大阪）	107.5	130	237.5	〃	54. 10. 15
	8	杉江　均	拓殖大学（栃木）	112.5	125	237.5	大学対抗	54. 11. 15
	9	古賀　貞雄	日本大学（福岡）	105	125	230	東日本学生選手権	54. 6. 8
	10	三木　功司	埼玉地連（埼玉）	110	120	230	全関東選手権	54. 8. 25
					平均	240.00		
					（前年	235.50）		
	1	平井　一正	亀山高校・教（三重）	127.5	150	277.5	日・韓親善	54. 12. 8
	2	斉藤　隆	山添高校・教（山形）	117.5	152.5	270	全日本選手権	54. 5. 26
	3	後藤　節哉	浦和市教育委員会（埼玉）	120	150	270	世界選手権	54. 11. 5
60	4	山中　康蔵	自衛隊体育学校（埼玉）	122.5	145	267.5	全日本選手権	54. 5. 26
	5	斉藤　秀男	庄内教育事務所（山形）	117.5	150	267.5	国体	54. 10. 16
	6	加藤　正雄	中京大学・職（愛知）	115	145	260	〃	54. 10. 16
kg	7	玉井　昇治	自営（静岡）	112.5	145	257.5	日中友好	54. 4. 29
	8	椎名千代実	日本大学（秋田）	110	142.5	252.5	国際友好杯	54. 3. 22
	9	関　正男	昭和アルミ（栃木）	112.5	140	252.5	全日本選手権	54. 5. 26
	10	新井　克治	中央大学（新潟）	100	142.5	252.5	大学対抗	54. 11. 15
					平均	262.75		
					（前年	255.50）		

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	ジャーク	トータル	大会名	年月日
	1	島屋 八生	日本体育大学・研（東京）	135	170	305	世界選手権	54.11. 6
	2	平井 一正	亀山高校・教（三重）	137.5	160	297.5	全日本選手権	54. 5.26
	3	高田 邦彦	自衛隊体育学校（埼玉）	132.5	160	292.5	世界選手権	54.11. 6
	4	後藤 節哉	浦和市教育委員会（埼玉）	125	155	280	国体	54.10.16
67.5	5	佐藤 光義	警視庁（東京）	125	152.5	277.5	全日本選手権	54. 5.26
kg	6	武井多加志	法政大学（山梨）	122.5	152.5	275	国体	54.10.16
	7	夏井 武美	秋田経済大学附高校・教（秋田）	125	150	275	〃	54.10.16
	8	関 正男	昭和アルミ（栃木）	125	145	270	社会人選手権	54.11.17
	9	岩田 弘	警視庁（東京）	115	152.5	267.5	全日本選手権	54. 5.26
	10	斎藤 徹	中央大学（山形）	122.5	145	267.5	大学対抗	54.11.16
					平均	280.75		
					（前年	281.00）		
	1	福田 輝彦	大津市勤労青少年ホームクラブ（滋賀）	145	172.5	317.5	社会人選手権	54.11.17
	2	角南 保	名古屋鉄道（愛知）	140	175	315	国体	54.10.17
	3	高田 邦彦	自衛隊体育学校（埼玉）	130	170	300	〃	54.10.17
	4	平岡 力	明治大学（静岡）	130	170	300	大学対抗	54.11.16
75	5	後藤 繁夫	四日市県税事務所（三重）	135	150	285	全日本選手権	54. 5.27
kg	6	小野 正	新居浜市農協（愛媛）	132.5	150	282.5	国体	54.10.17
	7	小池 務	上毛クラブ（群馬）	120	162.5	282.5	社会人選手権	54.11.17
	8	島田敬四郎	宮崎クラブ（宮崎）	127.5	155	282.5	〃	54.11.17
	9	小菅富十郎	小山高校・教（栃木）	125	155	280	日中友好	54. 5. 5
	10	早瀬 昇	大阪商業大学（愛知）	120	160	280	全日本選手権	54. 5.27
					平均	292.50		
					（前年	293.00）		
	1	佐藤 薫	自衛隊体育学校（埼玉）	142.5	177.5	320	全日本選手権	54. 5.27
	2	吉田 建規	県央消防署（長崎）	130	180	310	国体	54.10.17
	3	平岡 力	明治大学（静岡）	130	175	305	学生選手権	54. 4.27
	4	藤代 末男	尼崎市教育委員会（兵庫）	135	170	305	全日本選手権	54. 5.27
82.5	5	松尾 謙資	中央大学（新潟）	135	170	305	国体	54.10.17
kg	6	砂岡 良治	小山高校（栃木）	135	165	300	小山市秋季	54.11.10
	7	森川 浩一	坂井農業高校・教（福井）	135	160	295	日中友好	54. 5. 5
	8	永田 忠勝	五所川原工業高校・教（青森）	127.5	165	292.5	国体	54.10.17
	9	小菅富十郎	小山高校・教（栃木）	130	160	290	全日本選手権	54. 5.27
	10	稲岡 脈雄	中央大学（北海道）	125	165	290	大学対抗	54.11.17
					平均	301.25		
					（前年	295.50）		

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	ジャーク	トータル	大会名	年月日
	1	佐藤 光正	柴田農林高校•教（宮城）	145	177.5	322.5	アジア選手権	54. 8. 17
	2	松尾 謙資	中央大学（新潟）	135	172.5	307.5	大学対抗	54. 11. 17
	3	森川 浩一	オール福井（福井）	135	167.5	302.5	社会人選手権	54. 11. 18
	4	坂本 仁	日本大学（山梨）	127.5	170	297.5	大学対抗	54. 11. 17
90	5	佐藤 稔	山手中学・教（三重）	130	165	295	全日本選手権	54. 5. 27
kg	6	長内 久志	西北教育事務所（青森）	130	165	295	国体	54. 10. 18
	7	常深 英登	宮崎クラブ（宮崎）	130	165	295	社会人選手権	54. 11. 18
	8	吉田 惣治	日本体育大学（長崎）	127.5	162.5	290	国体	54. 10. 18
	9	小菅富十郎	小山高校・教（栃木）	130	160	290	〃	54. 10. 18
	10	上田 登	城南開発興業（京都）	130	160	290	社会人選手権	54. 11. 18
					平均	298.50（前年 294.25）		
	1	佐藤 光正	柴田農林高校•教（宮城）	142.5	180	322.5	東北•北海道社会人	54. 6. 24
	2	宮下 覚	大津クラブ（滋賀）	142.5	170	312.5	社会人選手権	54. 11. 18
	3	下坂 義昭	船川水産高校•教（秋田）	137.5	170	307.5	アジア選手権	54. 8. 17
	4	三石 悦雄	行徳高校・教（千葉）	140	165	305.5	国体	54. 10. 18
100	5	木村 明義	桜紙業（青森）	137.5	165	302.5	日中友好	54. 5. 5
kg	6	柴崎 恒二	上毛クラブ（群馬）	130	172.5	302.5	社会人選手権	54. 11. 18
	7	坂本 仁	日本大学（山梨）	127.5	170	297.5	国体	54. 10. 18
	8	福崎 君夫	中央大学（岩手）	130	160	290	東日本学生選手権	54. 6. 10
	9	楡原 道雄	前橋トレーニングセンター（群馬）	125	165	290	国体	54. 10. 18
	10	上島 政隆	諫早消防署（長崎）	127.5	160	287.5	〃	54. 10. 18
					平均	301.75（前年 297.75）		
	1	大川 克弘	大阪府警（大阪）	142.5	175	317.5	国体	54. 10. 18
	2	柴崎 恒二	マニハ食品（群馬）	132.5	177.5	310	全関東•京畿道親善	54. 6. 2
	3	福崎 君夫	中央大学（岩手）	140	170	310	国体	54. 10. 18
	4	下坂 義昭	スポーツ会館クラブ（秋田）	140	170	310	社会人選手権	54. 11. 18
110	5	楡原 道雄	前橋トレーニングセンター（群馬）	130	165	295	全日本選手権	54. 5. 27
kg	6	西本 研一	徳島大学病院（徳島）	135	160	295	〃	54. 5. 27
	7	岩崎 雄二	警視庁（東京）	130	165	295	全関東選手権	54. 8. 26
	8	桜庭 吉文	日本大学（秋田）	120	155	275	学生選手権	54. 4. 25
	9	野口 靖夫	拓殖大学（東京）	125	150	275	東日本学生選手権	54. 6. 10
	10	岡本 実	茨城クラブ（茨城）	117.	155	272.5	社会人選手権	54. 11. 18
					平均	295.50（前年 276.00）		
	1	杉本 誠起	岡山大学寺本外科（岡山）	132.5	170	302.5	全日本選手権	54. 5. 27
	2	西本 研一	徳島大学病院（徳島）	135	167.5	302.5	国体	54. 10. 18
+	3	岩崎 雄二	警視庁（東京）	130	170	300	社会人選手権	54. 11. 18
110	4	楡原 道雄	前橋トレーニングセンター（群馬）	125	160	285	日中友好	54. 5. 5
kg	5	鈴木 勝	鈴誠商店（静岡）	120	160	280	社会人選手権	54. 11. 18
	6	畑島 邦盛	ニュー•ナンバ•グランドホテル（大阪）	110	150	260	国体	54. 10. 18
	7	坂井 厳司	京都産業大学（長野）	100	140	240	〃	54. 10. 18
			長		平均	281.43（前年 280.83）		

昭和５４年度ジュニア全日本十傑表

社団法人　日本ウエイトリフティング協会

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	記録 ジャーク	記録 トータル	大会名	年月日
	1	小高　正宏	日本体育大学（兵庫）	100	130	230	日・韓親善	54. 12. 9
	2	西川　荘吾	法政大学（滋賀）	90	122.5	212.5	大学対抗	54. 11. 15
	3	佐々間一也	中京大学（静岡）	92.5	117.5	210	〃	54. 11. 15
	4	原　徹	前橋育英高校（群馬）	90	115	205	日・韓高校	54. 9. 2
52	5	金嶋　幸春	拓殖大学（青森）	92.5	105	197.5	東日本学生個人戦	54. 10. 10
kg	6	横沢　浩	米沢工業高校（山形）	82.5	110	192.5	国体	54. 10. 15
	7	中西　正明	明石南高校（兵庫）	85	107.5	192.5	〃	54. 10. 15
	8	小沼　厚志	日本大学明誠高校(山梨)	80	107.5	187.5	高校総体	54. 8. 2
	9	恵　清光	大阪商業大学(鹿児島)	85	100	185	西日本学生選手権	54. 6. 12
	10	戸叶　悟	自衛隊体育学校(埼玉)	87.5	97.5	185	社会人選手権	54. 11. 16
					平均	199.75		
					（前年	201.25）		
	1	市場　孝士	南晃工業（大阪）	107.5	130	237.5	国体	54. 10. 15
	2	古賀　丈士	トヨタ自工（愛知）	95	125	220	ジュニア世界予選	54. 4. 8
	3	西川　荘吾	法政大学（滋賀）	95	125	220	全日本学生新人戦	54. 11. 30
	4	永田　誓司	日本大学（兵庫）	97.5	120	217.5	大学対抗	54. 11. 15
56	5	平井　久雄	拓殖大学（栃木）	95	120	215	〃	54. 11. 15
kg	6	長谷川博一	名城大学附高校（愛知）	92.5	117.5	210	国体	54. 10. 15
	7	原　徹	前橋育英高校（群馬）	92.5	115	207.5	全関東選手権	54. 8. 25
	8	松井　雅和	中京大学（三重）	85	117.5	202.5	西日本学生選手権	54. 6. 12
	9	小川　孝夫	日本大学（岐阜）	85	115	200	ジュニア世界予選	54. 4. 8
	10	岡田富士則	姫路東高校 家島分校（兵庫）	95	105	200	高校総体	54. 8. 3
					平均	213.00		
					（前年	214.25）		
	1	村木　洋介	日本体育大学（岡山）	107.5	140	247.5	東日本学生選手権	54. 6. 8
	2	平良　朝治	法政大学（沖縄）	105	142.5	247.5	国体	54. 10. 16
	3	城間　忠誠	法政大学（沖縄）	107.5	137.5	245	大学対抗	54. 11. 15
	4	難波　謙二	羽黒工業高校（山形）	107.5	130	237.5	国体	54. 10. 16
60	5	古賀　丈士	トヨタ自工（愛知）	100	132.5	232.5	社会人選手権	54. 11. 16
kg	6	永田　誓司	日本大学（兵庫）	100	130	230	学生選手権	54. 4. 26
	7	笠松　敏夫	法政大学(和歌山)	100	130	230	東日本学生選手権	54. 10. 10
	8	沢久　政治	名城大学（長崎）	100	130	230	大学対抗	54. 11. 15
	9	原塚　博文	大阪商業大学（徳島）	100	127.5	227.5	学生選手権	54. 4. 26
	10	三木　聖士	明石北高校（兵庫）	95	125	220	国体	54. 10. 16
					平均	234.75		
					（前年	228.00）		

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	ジャーク	トータル	大会名	年月日
	1	斉藤　徹	中央大学(山形)	122.5	145	267.5	大学対抗	54.11.16
	2	上薗　一春	大阪商業大学(鹿児島)	117.5	140	257.5	ジュニア世界予選	54.4.8
	3	平良　朝順	法政大学(沖縄)	110	145	255	東日本学生選手権	54.6.9
	4	瓜田　明義	串本高校(和歌山)	115	140	255	日・韓高校	54.9.2
67.5	5	成田　幸成	日本大学(青森)	105	142.5	247.5	東日本学生選手権	54.6.9
kg	6	和田　昌樹	大阪商業大学(三重)	107.5	140	247.5	ジュニア世界選手権	54.6.19
	7	高橋　誠	日本体育大学(群馬)	107.5	140	247.5	全日本学生新人戦	54.11.30
	8	城間　忠誠	法政大学(沖縄)	110	135	245	学生選手権	54.4.26
	9	平良　朝治	法政大学(沖縄)	110	135	245	東日本学生個人戦	54.10.10
	10	岩田　誠	拓殖大学(青森)	110	130	240	大学対抗	54.11.16
					平均	250.75		
					(前年	250.75)		
	1	成田　幸成	日本大学(青森)	117.5	160	277.5	大学対抗	54.11.16
	2	上薗　一春	大阪商業大学(鹿児島)	122.5	152.5	275	〃	54.11.16
	3	斎藤　徹	中央大学(山形)	115	145	260	国体	54.10.17
	4	荒関　秀悦	法政大学(青森)	117.5	140	257.5	東日本学生選手権	54.6.9
75	5	畠山　広栄	日本大学(秋田)	112.5	142.5	255	〃	54.6.9
kg	6	菊地　寿	日本体育大学(栃木)	120	135	255	東日本学生個人戦	54.10.11
	7	高尾　和志	大阪工業大学高校(大阪)	115	140	255	国体	54.10.17
	8	橋本　昭一	大阪体育大学(大阪)	115	140	255	大学対抗	54.11.16
	9	吉田　和久	日本体育大学(長崎)	110	145	255	全日本学生新人戦	54.12.1
	10	松下　忠光	糸満高校(沖縄)	115	135	250	日・韓高校	54.9.2
					平均	259.50		
					(前年	257.75)		
	1	砂岡　良治	小山高校(栃木)	135	165	300	小山市秋季	54.11.10
	2	宮城　政章	日本体育大学(沖縄)	125	162.5	287.5	国体	54.10.17
	3	小林　明宏	法政大学(千葉)	120	162.5	282.5	大学対抗	54.11.17
	4	中村　斉	日本体育大学(三重)	115	150	265	東日本学生選手権	54.6.10
82.5	5	畠山　広栄	日本大学(秋田)	117.5	145	262.5	大学対抗	54.11.17
kg	6	船越　謙	中京大学(青森)	110	150	260	ジュニア世界予選	54.4.8
	7	小嶋　栄二	日本体育大学(新潟)	115	145	260	東日本学生選手権	54.6.10
	8	宮内日出夫	明治大学(兵庫)	115	145	260	大学対抗	54.11.17
	9	細川　達也	四日市中央工業高校(三重)	115	140	255	高校総体	54.8.5
	10	島袋　隆之	城西大学附 城西高校(東京)	115	140	255	〃	54.8.5
					平均	268.75		
					(前年	268.25)		

階級	順位	氏名	所属	記録 スナッチ	ジャーク	トータル	大会名	年月日
90 kg	1	砂岡 良治	小山高校(栃木)	120	160	280	全関東選手権	54. 8. 26
	2	小林 明宏	法政大学(千葉)	117.5	157.5	275	学生選手権	54. 4. 25
	3	船越 謙	中京大学(青森)	120	150	270	学生東西対抗	54. 6. 24
	4	山田 一広	堅田高校(滋賀)	115	145	260	国体	54. 10. 17
	5	堀内 喜良	中央大学(新潟)	117.5	150	267.5	全日本学生新人戦	54. 12. 2
	6	山崎 雅彦	日本体育大学(大阪)	112.5	145	257.5	ジュニア世界予選	54. 4. 8
	7	前田 広明	日本大学(茨城)	117.5	140	257.5	学生選手権	54. 4. 25
	8	近藤 保	五城目高校(秋田)	117.5	140	257.5	国体	54. 10. 17
	9	筒井 芳孝	日本大学(埼玉)	117.5	140	257.5	全日本学生新人戦	54. 12. 2
	10	小宮山哲雄	日本大学(山梨)	115	137.5	252.5	国体	54. 10. 17
					平均	263.50		
					(前年	262.75)		
100 kg	1	小宮山哲雄	日本大学(山梨)	125	147.5	272.5	全日本学生新人戦	54. 12. 2
	2	野口 靖夫	拓殖大学(東京)	120	145	265	ジュニア世界予選	54. 4. 8
	3	南方 功司	大阪商業大学(和歌山)	115	147.5	262.5	学生東西対抗	54. 6. 24
	4	坂井 厳司	京都産業大学(長野)	100	130	230	大学対抗	54. 11. 17
	5	長谷 章一	日本体育大学(鳥取)	100	130	230	全日本学生新人戦	54. 12. 2
	6	高橋 賢二	日本工業大学(東京)	70	90	160	大学対抗	54. 11. 17
					平均	236.60		
					(前年	212.50)		
110 kg	1	野口 靖夫	拓殖大学(東京)	125	150	275	東日本学生選手権	54. 6. 10
	2	南方 功司	大阪商業大学(和歌山)	112.5	140	252.5	国体	54. 10. 18
	3	坂井 厳司	京都産業大学(長野)	100	130	230	学生東西対抗	54. 6. 24
					平均	252.50		
					(前年	243.75)		

◇第38回ヨーロッパ選手権大会

（54年5月19－27日　バルナ）

52 kg級

順位	氏　名	国　名	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	A.VORONIN	ソ　連	52.00	245.	110	135
2	S.LELETKO	ポーランド	51.70	232.5	102.5	130
3	B.OIAH	ハンガリー	51.90	232.5	100	132
4	T.GOLIK	ポーランド	51.95	230.	100	130
5	G.TOSTO	イタリア	51.65	207.5	92.5	115
6	J.OTAVA	チェコスロバキア	51.95	205.	87.5	117.5
7	F.KALESHI	アルバニア	52.00	202.5	87.5	115
8	D.RAUL	ポーランド	51.60	190.	80	110

56 kg級

1	A.KODJABASHEV	ブルガリア	55.70	262.5	115	147.5
2	T.DEMBONCZYK	ポーランド	55.60	260.	115	145
3	I.STEFANOVICS	ハンガリー	55.80	252.5	110	142.5
4	G.MAFTEI	ルーマニア	55.75	240.	100	140
5	M.TULI	ルーマニア	55.90	240.	105	135
6	B.LEBRUN	フランス	55.30	237.5	105	132.5
7	I.KATSAIDONIS	ギリシヤ	55.90	230.	102.5	127.5
8	I.SIDIROPOULOS	ギリシヤ	55.65	217.5	92.5	125

60 kg級

1	N.KOLESNIKOV	ソ　連	59.85	292.5	127.5	165
2	G.TODOROV	ブルガリア	59.55	272.5	125	147.5
3	M.GRIGORAS	ルーマニア	59.60	270	120	150
4	M.SEWERYN	ポーランド	59.50	267.5	122.5	145
5	A.PAVLAK	ポーランド	59.55	260	115	145
6	S.KIS	ルーマニア	59.95	260	115	145
7	D.BIDARD	フランス	59.70	257.5	107.5	150
8	J.C.CHAVIGNY	フランス	59.75	257.5	112.5	145

67.5 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	Y.RUSEV	ブルガリア	67.45	322.5	145	177.5
2	J.KUNZ	東ドイツ	67.50	315	140	175
3	G.AMBRASS	東ドイツ	67.30	312.5	137.5	175
4	J.RUTTER	チェコスロバキア	67.35	305	135	170
5	V.TODOROV	ブルガリア	66.85	302.5	130	172.5
6	D.SENET	フランス	67.05	300	132.5	167.5
7	K.RADSCHINSKY	西ドイツ	67.45	300	130	170
8	J.LOSTOWSKI	ポーランド	67.10	295	130	165

75 kg級

1	Y.MITKOV	ブルガリア	74.40	345	155	190
2	N.KOLEV	ブルガリア	74.25	337.5	150	187.5
3	D.WENZEL	東ドイツ	74.60	332.5	150	182.5
4	J.NEGWER	西ドイツ	74.75	330	145	185
5	D.CIOROSLAN	ルーマニア	74.50	327.5	142.5	185
6	V.MILITOSIAN	ソ連	74.80	327.5	142.5	185
7	W.HUBNER	東ドイツ	74.65	320	142.5	177.5
8	V.JEZEK	チェコスロバキア	74.85	317.5	140	177.5

82 kg級

1	B.BLAGOEV	ブルガリア	81.80	380	172.5	207.5
2	P.RABCZEWSKI	ポーランド	82.30	352.5	155	197.5
3	D.POLIACIK	チェコスロバキア	81.95	340	147.5	192.5
4	A.STARK	ハンガリー	82.30	340	150	190
5	N.BERGMANN	西ドイツ	82.00	335	142.5	192.5
6	K.GROH	西ドイツ	80.70	330	145	185
7	A.ORVOS	ハンガリー	82.10	330	145	185
8	J.AVELLAN	フィンランド	82.50	317.5	140	177.5

90 kg級

1	R.MILSER	西ドイツ	89.90	382.5	160	222.5
2	P.BACZAKO	ハンガリー	88.30	370	165	205
3	V.SHARII	ソ連	89.10	370	165	205
4	R.ALEXANDROV	ブルガリア	89.40	360	155	205
5	F.ANTALOVITS	ハンガリー	89.70	360	160	200
6	V.GROAPA	ルーマニア	89.45	350	157.5	192.5
7	L.SRSEN	チェコスロバキア	87.90	340	147.5	192.5
8	G.KENNEL	西ドイツ	88.75	332.5	150	182.5

100 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	D.RIGERT	ソ連	93.70	402.5	180	222.5
2	P.SIRCHIN	ソ連	98.95	392.5	172.5	220
3	P.ASPARUHOV	ブルガリア	98.00	375	170	205
4	J.SOLYOMVARI	ハンガリー	96.90	372.5	167.5	205
5	C.LAKOVOU	ギリシア	97.30	367.5	165	202.5
6	M.HENNIG	東ドイツ	98.80	365	160	205
7	O.ZAREMBA	チェコスロバキア	99.35	365	165	200
8	S.TASNADI	ルーマニア	99.10	347.5	157.5	190

110 kg級

1	Y.ZAITSEV	ソ連	110.00	400	172.5	227.5
2	B.DRANDAROV	ブルガリア	108.00	390	172.5	217.5
3	P.KAKS	東ドイツ	108.25	385.	170	215
4	G.SZALAI	ハンガリー	109.15	382.5	167.5	215
5	L.NILSSON	スウェーデン	108.00	380	167.5	212.5
6	P.KHEK	チェコスロバキア	110.00	377.5	175	202.5
7	M.PARAPANCEA	ルーマニア	109.45	362.5	157.5	205
8	W.NEYSES	西ドイツ	107.30	350	160	190

＋110 kg級

1	G.BONK	東ドイツ	146.60	427.5	185	242.5
2	J.HEUSER	東ドイツ	133.00	422.5	180	242.5
3	R.STREJCEK	チェコスロバキア	130.05	390	180	210
4	R.SKOLIMOWSKI	ポーランド	151.40	385	175	210
5	J.LAPPA	フィンランド	148.50	350	150	200
6	S.KERJCIK	ルーマニア	129.40	345	155	190

◇国別順位

順位	国名	得点	順位	国名	得点	順位	国名	得点
1	ブルガリア	276	8	FRG	112	15	イタリア	18
2	ソ連	239	9	フランス	57	16	イギリス	10
3	東ドイツ	188	10	ギリシヤ	41	17	オーストリア	8
4	ハンガリー	186	11	スウェーデン	25	18	ポルトガル	7
5	ポーランド	174	11	フィンランド	25	19	ユーゴスラビア	5
6	チェコスロバキア	142	13	アルバニア	20	20	ベルギー	2
7	ルーマニア	133	14	スペイン	19			

◇１９７９年パンノニア大会

（５４年７月１７日～２１日　ハンガリー・ブダペスト）

監督　金子定広

８０年代の幕あけとともに，モスクワオリンピックの年でもあります。

候補選手におかれましては，連日練習に汗を流しておられることと思います。さて昨年モスクワオリンピック強化の一環として参加したパンノニア大会に，微力ながら監督として大役を果してまいりましたので，大会を振返っていろいろ思い出しつつ書いてみました。

街のほぼ中央を流れるドナウ川は流れがゆるやかで，まわりの建物と調和して大変美しい街です。ここハンガリー国ブダペスト市で，１９７９年パンノニア大会が７月１７日～２１日まで盛大に開催されました。参加17ケ国約８５名の選手とハンガリー選手権を兼ねて行なわれた。日本からは団長以下１０名の選手団が大会に臨みました。ブダペストは私にとって大変懐かしい思い出があります。それは，1962年の世界選手権に日本代表として，初めての海外遠征だったからです。当時海外遠征といえばオリンピック・アジア大会と世界選手権だけでしたから，大変名誉なことでした。今から思いますとまるで嘘のようです。今までは年数回の海外遠征と国内での国際大会があり，それだけ当協会の発展と選手に対する強化の前向な姿勢がうかがわれるものでした。

さて，本来ならここで大会の細かい記録等を報告したいのですが，大会に参加して私の思いついた点を書かせていただきます。大会の成果は沢山ありました。まず67.5kg級島屋選手，大会前から手首の痛みがありながらも，ジャーク170.5kgの見事日本新を出し優勝し，これがギリシヤでの世界選手権での４位入賞につながるとともにオリンピックでの活躍が楽しみになってきたことを確信します。さらに60kg級では長い間の怪我を良く克服し，優勝した後藤選手の根性とスピードある試技は世界選手権での銅メダルがカンバック

を実証したと思います。また52kg級高橋選手のガツある第２位入賞をきめたジャーク130kgと大変見応のある試合でした。ほかに52kg級宮下選手，75kg級福田選手といった若い人は自己のベスト記録には及ばなかったけれども，帰国後の国内での大活躍はまだ記憶に新しいかと思います。宮下選手は今回が初めての海外遠征でしたが，やはり力不足のところもありましたが，その後の強化合宿での成果が，大学対抗戦最終選考会での，二度トータル230kgは見事なものと思います。75kg級福田選手はスピード・テクニックの巧さに比べ力不足が目につきましたが，小山市の社会選手権では人が変ったほど力強い試技で大内さん（現競技力副委員長）のもつスナッチ145kgを１２年ぶりに塗りかえた145.5kgは信じられないほどでした。当日大内さんと観戦していましたが，「福田は150の180位まで記録が伸びそうですね」と大変喜んでおりました。最終選考会でもトータル317.5kgとやっと安定性をみせてきたものの，まだまだ力不足がポイントではないでしょうか。

60kg級山中選手は，スピード・テクニックは大変良いものを持っていますが，やはり力不足が強化の重点ではないでしょうか。67.5kg級高田選手は試合二日前から発熱をし，体調不十分のままで試合に出場したことは大変残念に思っております。候補選手は自分の健康管理にも責任をもって大会に臨んでほしいと思います。

以上，私なりに思いついた点を勝手な表現で書きましたが，モスクワオリンピックまで残すところ２００日ほどとなりましたが，候補選手におかれましては一層ご努力されますようお願いします。最後になりましたが，本大会にご協力・ご理解をいただきました協会関係者をはじめ，団長・コーチ・選手各位に感謝しましておわりとします。

52kg級

順位	氏　　名	国　　名	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	B.OLAH	ハンガリー	52.00	240	107.5	132.5
2	高橋雅朝	日本	51.40	227.5	97.5	130
3	H.JUAN	キューバ	51.70	227.5	102.5	125
4	E.GALECZKI	ポーランド	51.80	217.5	87.5	130
5	J.OTTAVA	チェコスロバキア	52.00	210	90	120
6	T.ATTIYA	エジプト	51.90	197.5	90	107.5
7	S.ZORAN	ユーゴスラビア	51.75	177.5	75	102.5
8	D.IBRAHIM	トルコ	51.35	175	77.5	97.5
	宮下日出海	日本	51.70	220	100	120

56kg級

1	I.STEFANOVICS	ハンガリー	55.60	247.5	105	142.5
2	H.SZESZNIAK	ポーランド	55.65	235	100	135
3	J.AHMED	エジプト	55.80	225	95	130
4	J.KATSAINOIS	ギリシヤ	55.35	220	97.5	122.5
5	Z.KULJANIN	ユーゴスラビア	55.40	212.5	92.5	120
6	U.MESUT	トルコ	55.65	200	87.5	112.5

60 kg級

順位	氏　　名	国　　名	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	後藤節哉	日　本	59.00	260	115	145
2	L.SZUCS	ハンガリー	58.95	247.5	110	137.5
3	W.HORTI	チェコスロバキア	59.45	242.5	107.5	135
4	F.BESS	ユーゴスラビア	59.25	235	110	125
5	G.LEWS	イギリス	59.70	230	100	130
6	B.DOGAN	トルコ	59.85	230	105	125
7	J.HELSEING	スウェーデン	59.30	220	92.5	127.5
	山中康歳	日　本	59.35	255	115	140

67.5 kg級

1	島屋八生	日　本	66.10	300	130	170
2	S.MAREK	ポーランド	66.30	285	125	160
3	F.FODOR	ハンガリー	66.90	282.5	127.5	155
4	E.CHEMAL	トルコ	67.40	277.5	127.5	150
5	B.STELLIAS	オーストラリア	66.85	267.5	117.5	150
6	W.LEGEL	オーストラリア	67.30	267.5	117.5	150
7	A.MAHMUD	エジプト	67.25	255	110	145
8	L.ISAAC	イギリス	67.20	252.5	107.5	145

75 kg級

1	L.SCHOLZ	東ドイツ	74.10	305	130	175
2	F.SZABO	ハンガリー	74.30	305	140	165
3	N.BARROWES	イギリス	74.60	305	135	170
4	T.FUKUDA	日　本	73.10	300	135	165
5	J.DESSAT	チェコスロバキア	73.75	297.5	132.5	165
6	S.CASTIGLIONE	オーストラリア	74.65	292.5	127.5	165
7	G.RAUL	キューバ	71.20	290	130	160
8	R.TOJVANEN	スウェーデン	73.70	287.5	127.5	160

82 kg級

1	A.STARK	ハンガリー	82.00	342.5	155	187.5
2	J.GACZARZEVIC	ポーランド	82.00	317.5	142.5	175
3	V.JZSEK	チェコスロバキア	77.60	297.5	132.5	165
4	P.REINHOLD	オーストリア	81.80	292.5	130	162.5
5	S.CEGAR	ユーゴスラビア	80.90	290	130	160
6	D.TSCHAN	スイス	77.50	275	127.5	147.5
7	D.GURSEL	トルコ	81.80	265	120	145

90 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	F.ANTALOVICS	ハンガリー	89.40	367.5	165	202.5
2	P.GARUSEWICZ	ポーランド	87.25	335	145	190
3	L.FILIPOVICZ	チェコスロバキア	87.90	322.5	140	182.5
4	P.SALISBURY	アメリカ	89.30	317.5	140	177.5
5	H.KETTEL	東ドイツ	88.20	315	135	180
6	I.GOMAL	エジプト	86.80	300	135	165
7	G.LANGFORD	東ドイツ	89.35	290	130	160

100 kg級

1	J.SOLYOMVARI	ハンガリー	95.70	370	170	200
2	T.WERNER	東ドイツ	97.30	340	150	190
3	W.WITOLD	ポーランド	90.30	332.5	147.5	185
4	H.RUDOLF	オーストリア	97.80	330	145	185
5	G.ROBERT	アメリカ	97.40	322.5	145	177.5
6	K.ROSTISLAV	チェコスロバキア	99.60	322.5	140	182.5
7	B.SAYED	エジプト	97.90	315	135	180
8	T.FRANKO	ユーゴスラビア	96.10	310	132.5	177.5

110 kg級

1	G.SZALAI	ハンガリー	109.80	380	165	215
2	J.NEDVECZKY	ポーランド	104.40	355	160	195
3	L.KRATOCHVIL	チェコスロバキア	105.70	342.5	155	187.5
4	D.MITCHEL	オーストラリア	107.20	330	150	180
5	KEPHART	アメリカ	105.00	327.5	145	182.5

＋110 kg級

1	G.FERNANDEZ	キューバ	121.00	360	160	200
2	I.RETI	ハンガリー	140.50	360	165	195
3	G.HANNAN	アメリカ	142.60	342.5	152.5	190
4	H.GERBERT	エジプト	116.70	325	140	185
5	A.SIZOPOULOS	ギリシヤ	110.90	305	135	170

スパルタキヤード（プレ・オリンピック）大会に参加して

報告者　菊　地　俊　美

1　選手団及び大会の概要

(1)　選　手　団　　役　員　　菊地　俊美（競技力向上委員）

　　選　手　　湯地　保雄（56kg級　日本大学研究生）

　　〃　　斎藤　秀男（60kg級　庄内教育事務所）

(2)　期　　間　　昭和５４年７月２５日～８月３日

(3)　場　　所　　ソ連．レニングラード市

(4)　日本選手の競技結果

56kg級　湯地　保雄

スナッチ　105kg　　ジャーク　135kg　　トータル　240kg　　順位　11位

60kg級　斎藤　秀男

スナッチ　112.5kg　　ジャーク　145kg　　トータル　257.5kg　　順位　14位

2　総　　括

本大会には，本番のオリンピックで出場が予想されるソ連選手のほとんどが参加した。一方外国の招待チームで，オリンピックで上位入賞が可能な選手は１～２名の者を除き参加していなかった。各国とも11月に行なわれる世界選手権に照準を合わせているものと思われる。

各階級とも高いレベルの記録で優勝が争われた。我が国と対戦するとみられる軽量級においても52kg級で242.5 kg，56kg級で262.5kg，60kg級で282.5kgといずれも昨年の世界選手権大会の１位記録を上回るものであった。しかも，優勝記録の高さもさることながら，それに続く第２，第３の記録の高さに驚かされる。ソ連の選手層の厚さは我々の想像以上であった。スポーツクラブを主体とした共和国単位の強化，さらにはジュニア，ナショナルチームといった強化のシステムが確立され，オリンピック主義の基で徹底した強化が行なわれていることがうかがえる。

オリンピックでは，今回の記録より更に2.5kgプラスした線で優勝が争われるのではないか。また56kg級は，ソ連については東京オリンピック以来エントリーしていなかったが，今回の成績をみると十分優勝する力を持った選手がいるので，本番ではエントリーする可能性が高い。

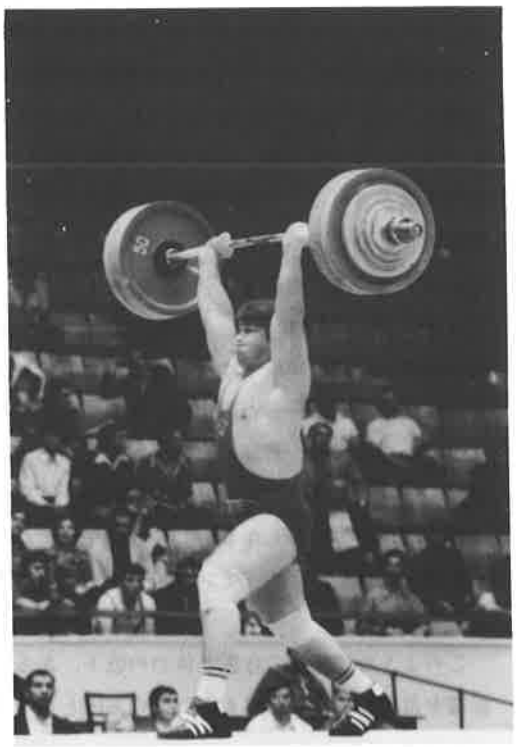
日本からは湯地，斎藤の２選手が参加した。両選手とも４～５kgの減量があり，この減量の成否が成績の上で一つのカギとなっていた。　両選手は現地（レニングラード）に入ってから減量を開始したが比較的楽に落ちた。しかし，この期間中に著しい体力の低下がみられた。このことは検量後の回復にも影響を及ぼし，ウォーミング・アップでの動き，または競技中の動きはソ連選手と歴然とした差が感じられた。

このような減量中の急激な体力の低下，あるいは回復能力の差というものが本大会の成績に大きな影響を及ぼしたものと言える。この原因として考えられることは，一つは持久力を養成するトレーニ

ングが不足していたのではないか。瞬発的な筋力を高めることは勿論であるが，検量後早急に体力が回復し競技できるよういわゆる「スタミナ」を持ちあわせる意味で，心肺機能の強化も怠ってはならない。

最後に，我が国選手の弱点はジャークにある。このジャークが弱くては作戦的意味においてもマイナスの面が大きく，また最後の勝負に勝つことはできない。したがってジャークの強化に務めるのは当然であるが，特に上半身の強化が急務と感じる。日々のトレーニングにプレス系統の種目は必須のものである。またラック・ジャーク・フロント・スクワット・バック・エクステンション等は多くとり入れる必要があろう。

← 今大会でS 175.5kg，J 215kg，T 390kgと3つの世界新記録を樹立したU・バルタニアン選手（ソ連）



ソ連重量級の若手のホープ →
P.シルチン選手（100kg級）

◇スパルタキアード大会（プレ・オリ）

（５４年７月２１日～８月５日　ソ連．レニングラード）

☆印　世界記録

52 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	HAN GYON SI	北朝鮮	51.7	242.5	☆ 107.5	135
2	A.VORONIN	ソ連	51.8	240	107.5	132.5
3	A.SENSHIN	ソ連	51.75	235	97.5	132.5
4	K.OSMONALIEV	ソ連	51.85	235	105.	130
5	R.DIU	ソ連	51.6	225	105	120
6	D.VALIEV	ソ連	51.85	225	97.5	127.5
7	I.LICHTNER	ソ連	52	225	100	125
8	B.RYZHIK	ソ連	51.6	222.5	95	127.5

☆ HAN GYON SI　スナッチ　111kg　世界新記録樹立

56 kg級

1	V.VERETENNIKOV	ソ連	55.6	262.5	112.5	150
2	S.MURADIAN	ソ連	55.7	257.5	110	147.5
3	O.KARAIANIDI	ソ連	55.8	255	112.5	142.5
4	TEN EN GUN	ソ連	56	250	110	140
5	V.LI	ソ連	55.45	247.5	110	137.5
6	S.SHERBATYCH	ソ連	56	247.5	110	137.5
7	Y.SARKISIAN	ソ連	55.8	245	105	140
8	F.MAVIUS	東ドイツ	56	245	107.5	137.5
⑪	湯地保雄	日本	55.6	240	105	135

60 kg級

1	N.KOLESNIKOV	ソ連	59.6	282.5	125	157.5
2	V.MAZIN	ソ連	60	282.5	125	157.5
3	V.LAVRINIUK	ソ連	59.7	280	122.5	157.5
4	V.GOLOVKO	ソ連	59.7	280	115	165
5	A.MELKONIAN	ソ連	59.7	272.5	115	157.5
6	F.KOVALEVSKI	ソ連	59.8	270	112.5	157.5
7	A.PAWLAK	ポーランド	60	270	120	150
8	A.KRIVITSKI	ソ連	60	270	117.5	152.5
⑭	斎藤秀男	日本	60	257.5	112.5	145

67.5 kg級

順位	氏名	国名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	V.TODOROV	ブルガリア	67.5	322.5	137.5	☆ 186
2	V.ANDREEV	ソ連	67.45	312.5	132.5	180
3	S.PEVZNER	ソ連	67.25	310	135	175
4	A.AVSETOV	ソ連	67.3	307.5	135	172.5
5	I.KAZAKOV	ソ連	67.3	305	135	170
6	A.SKONNIKOV	ソ連	67.4	302.5	132.5	170
7	A.KARTUNOV	ソ連	67.1	300	137.5	162.5
8	V.VERGUN	ソ連	67.45	300	140	160

75 kg級

1	V.SMIRNOV	ソ連	74.75	335	147.5	187.5
2	V.MILITOCIAN	ソ連	74.3	332.5	142.5	190
3	Z.TODOROV	ブルガリア	74.3	332.5	145	187.5
4	V.DENISOV	ソ連	74.55	332.5	150	182.5
5	A.PERVLL	ソ連	74.6	330	147.5	182.5
6	A.LOGUTOV	ソ連	74.6	330	140	190
7	V.BUGROV	ソ連	74.6	327.5	142.5	185
8	D.BANTASH	ソ連	74.25	322.5	140	182.5

82.5 kg級

1	Y.VARDANIAN	ソ連	81.8	☆ 390	☆ 175	☆ 215
2	V.TALAEV	ソ連	81.9	355	157.5	197.5
3	I.GRIGORIEV	ソ連	82.1	355	157.5	197.5
4	V.AVZHAN	ソ連	82.1	352.5	155	197.5
5	V.ILIN	ソ連	81.7	350	157.5	192.5
6	V.ZHILIAEV	ソ連	82.	347.5	150	197.5
7	L.KURTAMETOV	ソ連	82.3	345	155	190
8	V.KOROTKIN	ソ連	82.4	345	150	195

90 kg級

1	V.SHARI	ソ連	89.45	380	175	205
2	G.BESSONOV	ソ連	89.3	377.5	167.5	210
3	V.ZHGUN	ソ連	89.65	367.5	160	207.5
4	L.PLOKHOI	ソ連	87.2	365	165	200
5	E.VEREMENKO	ソ連	89.75	365	160	205
6	P.RABCHEWSKI	ポーランド	88.4	362.5	160	202.5
7	E.SHARONOV	ソ連	88.5	362.5	160	202.5
8	S.POLTORATATSKI	ソ連	89.65	362.5	160	202.5

100kg級

順位	氏　　名	国　名	体　重	トータル	ベスト S	ベスト J
1	P.SYRCHIN	ソ　連	99.8	395	167.5	222.5
2	V.KRAVTCHUK	ソ　連	99.65	392.5	172.5	220
3	S.KULAKOV	ソ　連	99.85	390	175	215
4	V.PLIUTA	ソ　連	98.9	377.5	165	212.5
5	G.MALIAR	ソ　連	96.45	375	165	210
6	S.SEMERNIA	ソ　連	97.3	375	170	205
7	I.NIKITIN	ソ　連	97.5	375	165	210
8	B.MATCHERNIS	ソ　連	99.6	375	170	205

110kg級

1	L.TARANENKO	ソ　連		410	177.5	232.5
2	S.ARAKELOV	ソ　連		407.5	182.5	225
3	Y.ZAITSEV	ソ　連		395	172.5	222.5
4	V.KUZNICHENKO	ソ　連		395	175	220
5	A.PISARENKO	ソ　連		392.5	172.5	220
6	R.OGANESIAN	ソ　連		392.5	170	222.5
7	G.ARUTUNIAN	ソ　連		392.5	177.5	215
8	V.SERDIUKOV	ソ　連		390	175	215

＋110kg級

1	S.RACHMANOV	ソ　連		420	185	235
2	A.YENALDIEV	ソ　連		410	177.5	232.5
3	E.POPOV	ブルガリア		407.5	180	227.5
4	V.MARCHUK	ソ　連		397.5	172.5	225
5	V.OKOROKOV	ソ　連		397.5	172.5	225
6	A.BORODIN	ソ　連		395	167.5	227.5
7	T.KURG	ソ　連		392.5	165	227.5
8	BLAGODARNII	ソ　連		387.5	170	217.5

プレ五輪・スパルタキャード大会に参加して

バンタム級選手　湯　地　保　雄

昭和54年７月21日から16日間にわたってソ連のモスクワを中心に開催されたスパルタキアード大会は４年に１度実施されるソ連国内大会であり，ソ連国では極めて大きな大会とされている。ソ連では大会にあたり数ケ月前から共和国内の代表を決めるための予選を行う。その位ソ連においては競技人口が多いのである。１９８０年に開催されるモスクワオリンピックを前にしてその規模は絶大なるものであった。町々にはオリンピックのマスコットである“ミーシャ”の絵があり，そしてソ連国のスポーツヒーローの写真が掲げられていた。飲食店はもとより，街路などの店にはソ連国では見慣れない紙コップならぬハッポースチロールコップが出回り，各国の国旗がつるさげられ，まさにオリンピック一色という感じであった。

ウエイトリフティング大会は，モスクワより汽車で約８時間かかるレニングラードで開かれた。レニングラードはモスクワほどの華かさはないが，ヨーロッパの田舎といった素朴さが感じられ，有名なコルミタージュ美術館があり，ソ連の芸術の中心地といった感じの美しい町で，美術品を扱う店が立ち並んでいる。招待国はポーランド・ブルガリア・北朝鮮・アメリカ・キューバ・東ドイツ・モンゴル・レバノン・パキスタン・チュニジア・日本などである。競技は７月26日より８月３日まで行われ，各国とも一週間ほど前にレニングラード入りしてトレーニングに調整にと励んでいた。会場はアイスホッケー場にリングを設置したもので，体育館の最上階にはテレビ用アナウンスボックスがある大きな建物であった。入場にあたっては入場料を買い求め，競技を観覧するのだが，その大きな場内が混雑するほどの混みようである。そんな中で一日目７月26日に52kg級の競技がはじまった。大半の選手がスナッチ95kg～100kgのスタートで，ジャークは120kg～130kgであった。スナッチに優勝したハン・ギョンシ（北朝鮮）が107.5kgをクリアーした後，111kgの世界新記録を樹立した。ジャークでは３位のA．センシン（ソ連・ウクライナ）が137.5kgを挙げている。56kg級はビクトル・ベレテニコフ（ソ連ロシア共和国）がスナッチ112.5kg，ジャーク150kg。67.5kg級はブルガリアのワレンケン・トドロフがジャーク185kgの世界新を挙げ優勝した。82.5kg級ではユーソク・バルタニヤン（ソ連アルメニア共和国）がスナッチ175.5kg，ジャーク215kgの世界新で優勝した。以上，世界新記録がこの大会で樹立された。がしかし，彼らばかりが記録保持者とは言いきれない。なぜならば２位・３位それ以外にも，ゆうに記録を作る力を持っているものがいるからだ。私がソ連のナショナルチームとトレーニングした時，ナショナルチームのリングに入れてもらえなかった選手で，V・ラブリニューク（ソ連ウクライナ）などは，今大

会で60kg級でジャーク157.5kgを挙げ，みごとに3位に入賞している。90kg級以上は1位～3位の差は2.5kg～5kgとまったく接近した記録で競われている。

以上のように，ブレ五輪・スパルタキアード大会はスポーツ王国ソ連の名にふさわしい大会であった。彼等の記録からは，日本人にはない強い筋力と柔軟なバネが見られ，同じスポーツをしている一人としても驚嘆に値するものであった。生活様式，食事などいろんな点で異なる面があると思いますが，現在においては，選手一人一人が科学的なトレーニングのもとに強い精神力をもって練習量で対処するしかないのではなかろうか。

写真は東ドイツ　十字科協会

安東熊夫氏御逝去

専務理事　林　　克　也

安東熊夫氏は，昭和９年我が国に最初に輸入されたバーベルを当時の文部省体育研究所に於いて，最初に接しその梱包を解き．その後の重量挙競技の普及指導の中心的役割を果し，ＩＦ加盟に努力活躍をなさった人物でありました。去る昭和54年８月４日午前11時，大阪市城東区　東大阪病院にて不治の病に倒れ永眠なされました。当年79才，ここに悼しんでご冥福をお祈り致します。

安東熊夫氏を知る記述として，いくつかを数えることが出来ますが，最近，体育学会機関紙「体育の科学」54年11月号，吉田清（杏林書院）の中に「日本重量挙連盟ようらん期」と題して詳しく著述されております。

振り返ってみますと，安東氏がバーベルに触れたいきさつというのは，体協名養会長故嘉納治五郎IOC委員が１９３３年（昭８）のウィーン会議（ベルリンオリンピックのため）の帰途，バーベルを購入して日本に持ち帰り，これを体育研究所の大谷技師に競技方法を研究させたのであります。また，それを当時大谷師の下で体育研究に従事していた安東氏が，フランスの本を翻訳して苦労をされながら芽生えさせ育てていったのであります。安東氏が吉田清氏にあてたハガキに次のように当時のことが述べられてあります。

「昭和９年３月奥国から２個の荷物が研究所に到着しました。命ぜられて縄を切り，釘を抜いて中味を調べました。人体解剖のような気がしました。重量挙競技法は仏文が原文ですが，思う程困難ではなかったので，私が翻訳し，この年の４月28日の全国体育運動主事会議で，解説と実技とを招介し，男女（みな）の川関と私とが実演しました。（以下略）」（昭和49年４月４日付）と非常に新鮮味を帯びて書かれております。日本の重量挙のまさに草分けの租とも言うべき方を失ってしまったことは誠に心痛む想いであります。尚，氏の履歴者の写しがありましたので掲載させていただき参考に供する次第です。

写真は若き日の故安東熊夫氏と，
氏をモデルとした〝健康美〟の
銅像（井之頭自然公園内）です。

履　　歴　　書

本籍地　大阪市港区八幡屋錦町184番地
現住所　大阪市城東区鴨野西1丁目2番15号寿荘
安　東　熊　夫
明治33年8月16日生

大阪松島で生まれ，大阪府立市岡中学（現高校）に入学。全国中等学校陸上競技大会個人優勝。大正10年，東京高等師範学校に入学。大正12年，極東大会に陸上競技と水泳競技選手として出場。家事の都合により中途退学。1年志願兵。家業に従事。母の死去により廃業。昭和4年，上京して文部省体育研究所に入り旧師の大谷武一技師の直接指導を受く。昭和5年，北村西望氏作の銅像"健康美"のモデルになる。昭和6年，オリンピック　府大会に初参加の体操競技の規定問題のフランス語を翻訳解説し選手を指導した。昭和7年，文部省体育研究所嘱託（無給）に任命される。同所内に居住した。因に日本の体操競技と重量挙競技は私が開拓した。昭和9年，重量挙競技法を紹介した。同年，低鉄棒運動法を考案，低鉄棒は全国に普及設置され，女子の鉄棒運動は風俗的にも歴史的であった。16ミリ映画「誰でも出来る低鉄棒運動」を製作（東京銀座十字屋発売）。昭和12年，「日本重量挙競技法並解説」を著作（東京・目黒書店発行）。昭和16年3月，文部省体育研究所官廃止。戦前戦後，東京都の学校に勤務。昭和22年10月15日，地方教官依願免官東京都。昭和23年，木下サーカス団特設学校教師。昭和26年8月左脚骨接右腰挫傷。昭和27年7月，木下サーカス退団。昭和28年，跳躍転回運動「タンブリング」を著作（東京・不昧堂書店発行）。昭和29年，来阪しルンペンを集めて宣伝社を開始。昭和32年4月2日，現住所に移る。昭和38年，大阪市会議員選手に立候補（落選）。昭和40年，参議院議員選挙全国区に立候補（落選）。昭和42年12月28日，病気精養のため宣伝社を廃業。昭和49年8月，病気入院約1ケ月。現在は老齢福祉年金で生活，貯金なし。

右の通り相違ございません。

昭和52年3月

右

安　東　熊　夫

「備　考」

北村西望先生作の銅像"健康美"は左記にあります。

①武蔵野市御殿山文化園内（金張黒漆塗像）

②東京・国立競技場（オリンピック会場）

③大分市大分駅前（昭和38年10月31日建立）

なお，私の筋肉と精神が長崎の"平和祈念像"にもあります。

インターハイについて

八　木　勇　蔵

3年前の春，滋賀県高体連より，５４総体ウエイトリフティング競技の開催を依頼されて，私共兵庫県の関係者が考えたことは，インターハイ開催の中心県からはづれた種目の運営はどうあるべきかという事であった。県民のムードとか歓迎行事等ではとても中心県に太刀打ができないし，予算面でもどうしても制約を受けるので結局，「選手が競技しやすい大会」にするために，すべてを集中することにした。したがって歓迎行事とか観光と言った面では参加者にやゝ不便をかけたが，やむを得なかったと思います。競技会場及びウォームアップ場の整備，器具の整理と充実，プログラムの正確な作成などに予算と人力を注ぎました。又，インターハイでは初めてのソ連式新型判定器も順調に作動したし，これ又インターハイでは初めての競技会場とアップ場及び選手控室を結んだモニターテレビも好評であった。

競技は順調に進み，大した破乱もなく，予想通り強いとうわさされていた者が各階級で優勝した。又各階級の上位に入った選手を見るとみんな冬の優秀選手強化合宿で意欲的な練習をしていた者であり，夏のインターハイに勝つには，いかに冬期の意欲的な練習が大切であるかを痛感した。

記録的に見ると日本高校新記録２，大会新記録５，大会タイ記録２で最近のインターハイとしては記録の高い大会であったと思います。特に，今大会での新記録を独占した砂岡（栃木・小山）の力強さが印象に残った。

団体ではこれも予想通り，大阪工高がうわさ通りの強さを発揮して２連勝をかざった。２位以下に大きく得点差をあけて２年連続でトップの座についた大阪工大高校に心からの祝意を表わしたい。

ここで２６回をかぞえ四半世紀をこえたインターハイの歴史をふりかえると，全国各地にウエイトリフティング競技を普及するのにずい分役立ったと思います。又現在国際舞台で活躍している選手はみんなインターハイの時すでに注目される選手であったことを見ても，日本の競技力向上にずい分大きな役割を果していると思います。今までにインターハイの開催・運営に力を借して下さった諸先輩に感謝しなければならないと思います。

しかし，国際的に若いリフターの記録がどんどん上昇している現在，インターハイの記録をもっと大巾に向上しなければならないと思います。かつてインターハイでジュニア世界記録にいどむ選手がかなりあったが，現在高校生でジュニア世界記録にいどめる選手が皆無であるということは淋しいかぎりである。高校生諸君も又高校指導者も単にインターハイ優勝を目標とするばかりでなく，もっと大きな世界への目標を持ってほしいと心から希望します。

インターハイ開催に御協力下さいました皆様に感謝します。

海外コーチ研修便り（東ドイツより　金子・篠宮）

AIR MAIL

TOKYO
JAPAN

小雪舞う成田空港を予定通り出発し広大なソ連領シベリア上空を快適に飛行し厳寒のシェレメチェボ空港に現地時間の5:30に着陸し言葉が充分に通じないながらもなんとか手続きを終了し、翌日第一の目的地ドレスデンに着いた。一番心強く感じたのはここで日本人の通訳がいた事で、DDRの協会の配慮及びJWA国際部の適切な依頼に深く感謝します。ホテルもガイドブックに載っている所でインターホテルドレスデンと言い市内では一流の所と思われます。参加国数は14ヶ国と聞いています。午後からダイナモ・スタジアム付近のトレーニング場にいき選手の名は軽い練習をしました。ここでは14～16才位の選手が数名、暖房のきいた好環境の下でトレーニングに励んでいました。優秀な選手がでると一つ上のクラスのクラブに所属される システムになっているようです。ある選手はコーチより食券のようなものを受け取っていました。今大会初参加ですが好成績を収めていきたいと選手・コーチ一同ハリキッています。

2.20.1980 PM15:00
金子 篠宮

ホテルにて

〒150
東京都渋谷区神南ハーバー
学記念体育会館内
(社)日本ボートリフティング協会 宛中
東ドイツ

写真は十字架の教会

◇第２５回全国高校総体（インターハイ）

氏名のあとの○印は団体出場選手
●印以下は失格者

52 kg級　（個人スタート重量　S　60.0 kg　J　82.5 kg）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	原　徹	○	群馬	前橋育英	3	51.60	**200**	**92.5**	**107.5**	5	3	2
2	小沼　厚志	○	山梨	日大明誠	3	51.95	**187.5**	**80**	**107.5**	3	1	2
3	中西　正明	○	兵庫	明石南	3	51.25	**185**	**85**	**100**	3	2	1
4	横沢　浩		山形	米沢工	3	51.55	**185**	**82.5**	**102.5**	2	1	1
5	磯部　一美		三重	亀山	3	51.7	**180**	**80**	**100**	3	2	1
6	難波　裕己	○	山形	山添	3	51.7	**180**	**80**	**100**	3	1	2
7	白石　嘉宏		兵庫	武庫工	3	51.15	**177.5**	**82.5**	**95**	3	2	1
8	幸田耕太郎	○	島根	出雲農林	3	51.45	**177.5**	**82.5**	**95**	4	3	1
9	畠山　義則		宮城	気仙沼水産	3	51.60	**177.5**	**82.5**	**95**	3	2	1
10	鈴木　健司		福島	平工	2	51.25	**175**	**80**	**95**	5	3	2
11	堰口　賢	○	埼玉	埼玉栄	**175**							
12	中沢　俊之		栃木	佐野日大	**175**							
13	高松　弘行	○	青森	金木	**172.5**							
14	関　鉄美		秋田	大館南	**170**							
15	古家　守	○	秋田	大館南	**170**							
16	柴田　伸二		長崎	諫早農	**165**							
17	小笠原鉄夫	○	宮城	柴田農林	**162.5**							
18	南雲　浩幸		群馬	前橋育英	**157.5**							
19	中田　博之		千葉	松戸南	**157.5**							
20	並木　良憲	○	東京	城西	**155**							
21	山口　弘	○	佐賀	有田工	**155**							
22	大城　栄		沖縄	糸満	**155**							
23	宮嶋　浩行		愛知	名古屋電気	**147.5**							
24	渡辺　浩嗣		静岡	吉原工業	**147.5**							
25	三宅　信宣		岡山	水島工	**142.5**							
26	三室　猛	○	富山	富山商	**135**							
27	二宮　勉	○	大分	大分工	**135**							
28	葉上　悦郎	○	岩手	雫石	**135**							
29	門野　正勝	○	山口	下関工	**130**							
30	山本　敏之	○	福井	若狭農林	**125**							
31	林　健二	○	長野	梓川	**125**							
32	上坂　重之	○	滋賀	堅田	**125**							
33	岩崎　誠	○	熊本	宇土	**115**							
●	藤田　章		青森	柏木農								
	大友　喜克		茨城	高萩工								
	山口　幸司	○	千葉	松戸東								
	水野　泰俊		岐阜	土岐								
	中野　光進		和歌山	和歌山東								
	三藤　健司		島根	江津工								
	脇　裕二	○	岡山	水島工								
	杉原　正尚		佐賀	有田工								
	金子　秀伯	○	宮崎	高鍋農								
	中園　裕夫		鹿児島	鹿児島商工								
	加藤　薫		東京	八王寺実践								
	黒沢　裕一		神奈川	法政二								

レフリー　S　森山，藤代，熊谷
　　J　小林，宮下，亀山

56 kg級　（個人スタート重量　S　65.0kg　　J　85.0kg）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	長谷川　博		愛知	名城大付	3	55.35	207.5	92.5	115	5	3	2
2	岡田富士則		兵庫	姫路東家島	3	54.65	200	95	105	3	2	1
3	林田　広明	○	大阪	大工大	3	55.70	200	90	110	4	2	2
4	西田　史郎	○	愛知	名古屋電気	3	55.55	197.5	90	107.5	3	2	1
5	瀬本　貴博	○	山口	下関工	3	55.60	195	90	105	5	3	2
6	近藤　雅敬	○	秋田	大館南	3	55.60	195	87.5	107.5	2	1	1
7	小林　靖夫	○	三重	四日市中央工	3	55.50	192.5	87.5	105	4	3	1
8	酒井　勝則	○	長崎	諫早農	3	55.40	190	85	105	3	2	1
9	清水　重行		青森	八戸工	3	55.55	190	85	105	3	1	2
9	針谷　宏	○	栃木	小山	3	55.55	190	80	110	3	1	2
11	田中　広幸	○	静岡	沼津学園	190	12	菅原　政好	○	山形	山形	商	187.5
13	田辺　正	○	東京	城西	187.5	14	渡辺　繁隆		埼玉	埼玉栄		187.5
15	岩井　幸男	○	佐賀	有田工	185	16	斎藤　豪		山形	庄内農		182.5
17	坂下　哲雄		三重	亀山	182.5	18	安原　健夫		岡山	倉敷商		180
19	吉村　修身		山梨	日川	177.5	20	平塚　正雄		宮城	石巻		175
21	金城　悟		沖縄	糸満	175	22	平田　政司		長崎	諫早農		172.5
23	佐久間与一	○	福島	福島農蚕	170	24	星　教男	○	宮城	柴田農林		170
25	和田　益治		和歌山	串本	170	26	大西　郁也		福井	坂井農		165
27	鈴木　健一		福島	平工	165	28	井上　誠		山口	下関商		162.5
29	鈴木　洋	○	千葉	松戸東	162.5	30	石橋　隆二	○	富山	富山商		160
31	池本　祐三		大阪	都島工	160	32	木元　浩仁		徳島	徳島工		157.5
33	菅野　光宏		岩手	水沢	157.5	34	石附　光男	○	新潟	三条工		155
35	那須　永英	○	島根	出雲農林	155	36	二木　浩一		大分	別府商		155
37	志賀　徳浩	○	北海道	夕張工	155	38	脇田　浩勝		鹿児島	鹿児島商工		155
39	宇賀神敏光		栃木	小山	152.5	40	松浦　康友	○	岩手	雫石		152.5
41	黒田　伸一		千葉	八千代	152.5	42	後藤　善生	○	大分	大分工		150
43	秋元　稔之		北海道	当別	150	44	津京　真二	○	神奈川	日大		150
45	今橋　健二	○	茨城	高萩工	145	46	坪田勘司郎	○	熊本	宇土		140
47	片山　博典	○	岐阜	中津	137.5	48	西村　聡	○	滋賀	堅田		125
49	矢部　昭治	○	徳島	徳島工	112.5	●	吉田　広		茨城	高萩工		
	若林　一彦		群馬	藤岡			春日　充生		東京	城西		
	猿倉　正明		富山	滑川			糸長　明史	○	福岡	八幡大付		
	川久保　忠		佐賀	有田工			中原　保	○	宮崎	高鍋農		
	藤本　茂樹	○	兵庫	明石南								

レフリー　S　鈴木，山田，福田
　　J　藤田，藤代，森山

60kg級　（個人スタート重量　S　70.0kg　J　90.0kg　）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	難波 謙二		山形	羽黒工	3	58.85	227.5	102.5	125	5	3	2
2	金子 訓久		栃木	葛生	2	58.90	217.5	102.5	115	4	3	1
3	野口 実	○	大阪	大工大	3	59.85	212.5	92.5	120	5	3	2
4	榎 峰夫		秋田	秋田工	3	59.65	210	97.5	112.5	4	2	2
5	荒木 薫		兵庫	姫路東家島	3	57.95	207.5	92.5	115	3	2	1
6	原 利浩	○	岐阜	中津	3	58.90	207.5	95	112.5	5	3	2
7	坂本 和也	○	埼玉	埼玉栄	3	59.35	205	87.5	117.5	4	1	3
8	鈴木 元盛	○	三重	四日市中央工	3	59.40	205	90	115	3	2	1
9	熊崎 正幸	○	愛知	名古屋電気	2	57.90	202.5	92.5	110	3	2	1
10	王城 和也		沖縄	糸満	3	59.10	202.5	92.5	110	4	3	1
11	梶原 一禎	○	佐賀	有田工	202.5	12	飛田 高志	○	滋賀	堅田	200	
13	三木 聖士	○	兵庫	明石北	200	14	田川 誠		長崎	諫早農	200	
15	上島 春喜		長崎	諫早農	197.5	16	平仲 康	○	沖縄	南部工	195	
17	芦田 敬		東京	法政二	195	18	岡崎 愛史	○	和歌山	串本	192.5	
19	桐沢 一幸	○	山形	山添	192.5	20	田中 洋二	○	青森	金木	190	
21	川崎 正博	○	福井	若狭農林	185	22	望月 勝	○	静岡	沼津学園	185	
23	小柏今朝明		群馬	藤岡	185	24	関根 二		埼玉	埼玉栄	182.5	
25	高野 利夫	○	栃木	小山	182.5	26	酒井 光一		徳島	徳島工	182.5	
27	杉田 道明		青森	柏木農	180	28	細田 雄樹	○	神奈川	日大	180	
29	引地 力男	○	福島	福島農蚕	175	30	浅生 隆二		三重	亀山	175	
31	友野 始徳		岡山	倉敷工	175	32	藤田 雅之		大分	大分工	175	
33	御前 彰		和歌山	吉備	175	34	田尻 俊之		福島	盤城	170	
35	寺前 嘉		大阪	都島工	170	36	井上 信幸		鹿児島	鹿児島商工	167.5	
37	三輪 康文	○	宮崎	高鍋農	165	38	西田 春夫		熊本	鎮西	165	
39	川嶋 正章	○	福岡	八幡大付	160	40	橋爪 孝裕		山梨	日川	160	
41	稲田 一也		岩手	岩谷堂	160	42	杉田 雅樹		千葉	松戸東	160	
43	羽賀 英輔	○	岡山	水島工	160	44	今橋 耕一	○	茨城	高萩工	155	
45	山本 政彦	○	富山	富山商	140	46	福田 宏二		愛媛	新居浜工	135	
47	井上 雅文	○	徳島	徳島工	112.5	●	小野田浩寿	○	北海道	夕張工		
	高橋 学	○	岩手	雫石			佐藤 武和		宮城	柴田農林		
	井上 健司	○	山梨	日大明誠			武田 光明		福井	坂井農		
	松浦 仁志		愛知	名城大付			足立 定夫		滋賀	安雲川		
	島田 勝志		島根	江津工			河口 英俊		山口	豊浦		
	中村 龍一		鹿児島	鹿児島商工			小野 仁克		北海道	札幌琴似工		

レフリー　S　山北，玉井，町支
　　J　長野，福田，新居田

67.5 kg級　（個人スタート重量　S　72.5kg　J　95.0kg）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	瓜田 明義	○	和歌山	串本	3	66.70	245	110	135	5	3	2
2	増子 重		秋田	秋田経大付	3	67.25	235	105	130	3	2	1
3	吉本 昌幸		山口	豊浦	3	66.00	225	100	125	2	1	1
4	岡野 雄二	○	愛媛	新居浜工	3	67.35	225	100	125	4	2	2
5	神原 晃	○	東京	城西	3	64.10	220	100	120	2	1	1
6	三田村高夫	○	山形	山添	3	64.85	220	100	120	3	2	1
7	斉藤 辰朗	○	長崎	諫早農	3	66.10	217.5	92.5	125	2	1	1
8	皆川 直己		東京	東亜学園	3	66.85	217.5	95	122.5	4	2	2
9	中井 豊	○	富山	富山商	3	64.65	215	100	115	3	2	1
10	久保 敬		兵庫	舞子	2	65.55	215	92.5	122.5	3	1	2
11	長内 正幸		青森	木造			210					
12	桜井 雅一	○	兵庫	明石北			210					
13	斉藤 明雄	○	秋田	大館南			205					
14	佐野 彰	○	新潟	三条工			200					
15	今野 裕之		山形	庄内農			200					
16	村上 浩巳		大阪	都島工			200					
17	国分 浩勝	○	福島	福島農蚕			200					
18	山村 武夫		岐阜	大垣南			195					
19	与那覆重徳		沖縄	中央			195					
20	倉持 勝己	○	栃木	小山			195					
21	平野 隆之	○	三重	四日市中央工			195					
22	石井 英幸	○	千葉	松戸東			195					
23	鳥谷 剛	○	福岡	八幡大付			192.5					
24	小池 幸泰		愛知	名古屋電気			192.5					
25	若林 洋司	○	島根	出雲農林			190					
26	白石 雄二		愛媛	新居浜工			187.5					
27	平木 祐二	○	大分	大分工			185					
28	小林 明		福井	福井農林			182.5					
29	信原 功	○	岡山	水島工			182.5					
30	佐野 康弘		三重	亀山			182.5					
31	紺野 昭紀		岩手	岩谷堂			180					
32	上野 泰寛	○	山梨	日大明誠			180					
33	上向井浩章		大分	別府商			180					
34	田畑 祐輔		北海道	東海大四			180					
35	谷池 光明		岩手	雫石			180					
36	後藤美津忠		静岡	沼津学園			175					
37	芳賀 聡		宮城	石巻			175					
38	口 修		和歌山	串本			175					
39	榎本 武司		埼玉	埼玉栄			175					
40	下窪 章夫		徳島	徳島工			175					
41	今井 正之		群馬	利根農林			172.5					
42	須子 房美	○	山口	下関工			170					
43	土手 和敏		千葉	国分			170					
44	万木日出和		滋賀	堅田			167.5					
45	雪八 延幸		長野	上田千曲			167.5					
46	畠中 浩行	○	福井	若狭農林			165					
47	岩島 秀明	○	長野	梓川			160					
48	兵藤 隆良	○	群馬	前橋育英			160					
49	田沢 孝幸	○	佐賀	有田工			150					
50	熊井 光文	○	熊本	宇土			142.5					
51	毛利 寿生	○	徳島	徳島工			135					
●	福井 幸喜	○	青森	金木								
	伊藤 忠		福島	相馬農								
	金井 忠義		茨城	土浦日大								
	丸山 一聡		栃木	小山								
	浜谷 外美	○	埼玉	埼玉栄								
	中川 豊久		富山	滑川								
	加藤 浩彦	○	岐阜	中津								
	村井 圭介	○	静岡	沼津学園								
	平山 光則		長崎	諫早農								
	井下 年光	○	宮崎	高鍋農								
	廻 忠吉		鹿児島	鹿児島商工								
	平仲 健	○	沖縄	南部工								
	杉本 雅宏	○	兵庫	明石南								
	草場 保夫		福岡	東福岡								

レフリー　S　藤代，藤田，熊谷
　　J　玉井，福田，町支

75 kg級　（個人スタート重量　S　75.0kg　　J　97.5kg　）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	松下　忠光		沖縄	糸満	2	73.65	245	110	135	4	2	2
2	大山　徹	○	新潟	三条工	3	73.05	242.5	112.5	130	4	3	1
3	安彦義司郎	○	宮城	柴田農林	3	72.75	240	110	130	4	2	2
4	高尾　和志	○	大阪	大工大	3	74.30	240	110	130	3	2	1
5	皆藤　聡		愛知	名城大付	3	71.45	237.5	105	132.5	4	2	2
6	大島　総司		岡山	倉敷商	3	73.55	232.5	105	127.5	5	2	3
7	福井　勝彦	○	青森	金木	3	72.95	230	110	120	3	2	1
8	古川　秀行	○	埼玉	埼玉栄	3	69.05	227.5	97.5	130	4	2	2
9	原　三治		岐阜	中津	3	71.50	225	97.5	127.5	3	1	2
10	佐藤　秀悦		岩手	岩谷堂農林	3	74.60	220	100	120	3	2	1
11	鈴木　良祐	○	兵庫	明石北			215					
12	寺岡　陽一	○	大分	大分工			215					
13	山田　文明	○	長崎	諫早農			212.5					
14	石田　祐二		千葉	八千代			210					
15	藤田　聖貴		愛媛	新居浜工			207.5					
16	田口　浩之		東京	東亜学園			205					
17	青木　旭	○	静岡	沼津学園			202.5					
18	佐藤　浩市		群馬	藤岡			200					
19	三浦一二三		秋田	秋田経大付			200					
20	池田　至		山形	羽黒工			200					
21	西沢　範隆		兵庫	神崎工			200					
22	新垣　盛幸	○	沖縄	南部工			200					
23	九津輪洋昭	○	鹿児島	鹿児島商工			200					
24	宍戸　正光		福島	福島養蚕			200					
25	大島　一夫		栃木	佐野日大			200					
26	磯打　正行		和歌山	和歌山工			200					
27	上田　貢		大阪	大工大			195					
28	野中　郁広		長崎	諫早農			195					
29	田村　正之	○	北海道	夕張工			187.5					
30	佐久間武彦	○	福島	福島農蚕			185					
31	小野　康浩		宮城	延岡工			180					
32	原木　猛司		山梨	日川			177.5					
33	柿本　政実		佐賀	有田工			177.5					
34	岩間　謙二	○	茨城	高萩工			175					
35	朝倉　富成		福井	福井農林			172.5					
36	小山　康夫		宮城	石巻			172.5					
37	小俣　泰志	○	山梨	日大明誠			172.5					
38	伊藤　玉味		静岡	東海大工			172.5					
39	小林　務	○	神奈川	日大			170					
40	岡田　孝治	○	島根	出雲農林			170					
41	坂下　道良	○	愛媛	新居浜工			135					
●	山形　秀夫		茨城	磯原								
	佐藤　幸雄	○	群馬	前橋育英								
	木村　勉		埼玉	羽生実業								
	大芝　恵一	○	滋賀	堅田								
	中崎　弘一	○	和歌山	串本								
	関　輝明		熊本	宇土								
	菅野　秀一		北海道	札幌琴似工								
	山田　一則		滋賀	安曇川								

大山　徹　S　112.5　大会タイ

レフリー　S　中嶋，長野，新居田
　　J　小林，熊谷，藤田

82.5 kg級　（個人スタート重量　S　75.0kg　J　97.5kg）

順位	氏名		県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	砂岡　良治	○	栃木	小山	3	79.30	**285**	**125**	**160**	3	2	1
2	細川　達也	○	三重	四日市中央工	3	81.50	**255**	**115**	**140**	4	2	2
3	島袋　隆之	○	東京	城西	3	82.10	**255**	**115**	**140**	3	2	1
4	戸松　伸隆		岐阜	土岐商	3	81.50	**240**	**110**	**130**	4	3	1
5	近藤　義信	○	秋田	大館南	3	75.80	**235**	**105**	**130**	3	2	1
6	相馬　隆之		青森	柏木農	2	75.45	**232.5**	**105**	**127.5**	6	3	3
7	多田　裕次	○	岡山	水島工	2	77.90	**230**	**100**	**130**	5	2	3
8	丸山　卓也		大阪	大産大	3	77.85	**227.5**	**97.5**	**130**	4	2	2
9	大塚　裕昭		栃木	佐野日大	2	77.15	**225**	**100**	**125**	3	1	2
10	橋本　朋浩	○	兵庫	明石北	3	76.55	**215**	**95**	**120**	4	2	2
11	吉野　賢二	○	宮城	柴田農林	**215**	12	畑野　広和	○	和歌山	串本	**212.5**	
13	金城　茂夫	○	沖縄	南部工	**210**	14	松浦　健治	○	大阪	大工大	**210**	
15	小島　一仁	○	千葉	松戸東	**210**	16	山家　東悦		宮城	柴田農林	**207.5**	
17	松元　伸吾		愛媛	新居浜工	**202.5**	18	大関　義和	○	新潟	三条工	**200**	
19	鶴飼　浩二		千葉	松戸南	**195**	20	大関　俊晴		新潟	三条工	**195**	
21	伊藤　達久	○	愛知	名古屋電気	**195**	22	肥後　裕一		埼玉	埼玉栄	**195**	
23	田辺　憲二		静岡	佐久間	**195**	24	永島　靖史	○	福岡	八幡大付	**195**	
25	上田　美由	○	兵庫	明石南	**192.5**	26	松谷　高経		兵庫	明石北	**190**	
27	須山　正美	○	神奈川	日大	**187.5**	28	伊藤　正幸		三重	四日市中央工	**185**	
29	野内　文彦		福島	福島農蚕	**180**	30	深沢　和範	○	群馬	前橋育英	**180**	
31	渡　信継		山口	下関	**175**	32	佐藤　雅人		北海道	札幌琴似工	**172.5**	
33	竹林　功	○	北海道	夕張工	**150**	34	鈴木　敏昭	○	茨城	高萩工	**140**	
●	三浦　和光		秋田	能代工			古田　誠		愛知	名古屋電気		
	鳥居　勝		滋賀	安曇川			徳田　隆		鹿児島	鹿児島商工		

砂岡良治（栃木，小山）　S　120　大会タイ　125　大会新
特別試技　128　日本高校新

J　160　大会新
特別試技　165.5　日本高校新

（注）砂岡　良治　特別試技　スナッチ 4 回目　128 kg　日本高校新記録樹立
〃　ジャーク　〃　165.5kg　〃　〃

レフリー　S　宮下，山北，鈴木
J　坂上，森山，藤代

90kg級　（個人スタート重量　S　75.0kg　　J　97.5kg ）

順位	氏　名	県名	学校名	学年	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数 T	成功回数 S	成功回数 J
1	川口　俊次	山口	下関工	3	85.00	**250**	**115**	**135**	4	2	2
2	山田　一広	滋賀	堅田	3	86.35	**245**	**110**	**135**	3	2	1
3	小野寺広太	山形	山形	3	82.55	**225**	**100**	**125**	3	1	2
4	関根　豊	埼玉	埼玉栄	3	85.55	**220**	**100**	**120**	4	2	2
5	沢　幸寿	岐阜	土岐商	3	86.90	**217.5**	**100**	**117.5**	4	2	2
6	石村　嘉人	青森	金木	3	82.65	**215**	**95**	**120**	4	2	2
7	富安　哲生	大分	別府商	3	83.50	**215**	**95**	**120**	3	1	2
8	簾内　満幸	秋田	合川	3	85.50	**215**	**100**	**115**	3	2	1
9	坂上　嘉昭	和歌山	和歌山工	3	83.00	**210**	**95**	**115**	4	2	2
10	吉越　進	長野	飯山照丘	3	84.45	**202.5**	**92.5**	**110**	3	2	1
11	松岡　満洋	東京	東亜学園	**195**	12	高谷　久雄	岡山	倉敷商	**195**		
	加藤　文久	茨城	土浦日大			生方　力	山梨	日大明誠			
	奥林　功	大阪	大工大			川上　和史	愛媛	新居浜工			
	後藤　誠	熊本	宇土								

レフリー　　S　宮下，山北，鈴木
　　J　坂上，森山，藤代

◇第23回全関東選手権大会

（54年8月25日～26日　東京・城西高校体育

成年の部

52 kg級
① 小野　薫（神奈川・東京たばこ）180（80—100）

56 kg級
① 三木　功司（埼玉・埼玉地連）230（110—120）
② 杉木　春二（群馬・明大）215
③ 小野　邦次（東京・警視庁）205

60 kg級
① 今井　勇夫（東京・警視庁）240（105—135）
② 藤原　講平（神奈川・日産自動車）227.5
③ 秋山　治（栃木・日体大）225

67.5 kg級
① 岩田　弘（東京・警視庁）267.5（115—152.5）
② 日浦　哲夫（埼玉・自衛隊体校）252.5
③ 村上　邦夫（神奈川・落栄作業）240

75 kg級
① 酒井　保（茨城・茨城県庁）280（127.5—152.5）
② 佐藤　光義（東京・警視庁）275
③ 武井多加志（山梨・法大）270

82.5 kg級
① 岡田　隆（山梨・甲府消防本部）280（125—155）
② 長谷川　徹（東京・日体大教）277.5
③ 菊地　悦夫（埼玉・自衛隊体校）267.5

90 kg級
① 小菅富十郎（栃木・小山高教）285（125—155）
② 小林　明宏（千葉・法大）270
③ 山沢　誠二（東京・早大教）265

100 kg級
① 三石　悦雄（千葉・行徳高）300（140—160）
② 坂本　仁（山梨・日　大）285
③ 阿久津　洋（群馬・自営）247.5

110 kg級
① 岩崎　雄二（東京・警視庁）295（130—165）
② 楡原　道雄 292.5
③ 岡本　実（茨城・磯原高）270

少年の部

52 kg級
① 堰口　賢（埼玉・埼玉栄高）175（75—100）
② 中沢　俊之（栃木・佐野日大高）172.5
③ 南雲　浩幸（群馬・前橋育英高）160

56 kg級
① 原　徹（群馬・前橋育英高）207.5（92.5—111）
② 針谷　宏（栃木・小山高）195
③ 小沼　厚志（山梨・日大明誠高）192.5

60 kg級
① 金子　訓久（栃木・葛生高）217.5（102.5—115）
② 坂本　和也（埼玉・埼玉栄高）195
③ 吉村　修身（山梨・日ツ高）185

67.5 kg級
① 神原　晃（東京・城西高）220（100—120）
② 浜谷　外美（埼玉・埼玉栄高）215
③ 石井　英幸（千葉・松戸東高）200

75 kg級
① 古川　秀行（埼玉・埼玉栄高）225（100—125）
② 大島　一男（栃木・佐野日大高）200
③ 原木　猛司（山梨・日川高）187.5

82.5 kg級
① 大塚　裕昭（栃木・佐野日大高）225（105—120）
② 内野　茂（埼玉・埼玉栄高）217.5
③ 松岡　満洋（東京・東亜学園）205

90 kg級
① 砂岡　良治（栃木・小山高）280（120—160）
② 島袋　隆之（東京・城西高）247.5
③ 関根　豊（埼玉・埼玉栄高）220

◇第１回日・韓ユース競技大会

（５４年９月２日　韓国・韓国体育大学体育館）

52 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	朴　鎮興	韓国	聖光高	51.8	**210**	**95**	**115**	6(3−3)
2	原　徹	日本	前橋育英高	52	**205**	**90**	**115**	4(2−2)

56 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	池　珠鉉	韓国	全南高	55.85	**202.5**	**92.5**	**110**	3(2−1)
2	長谷川　博一	日本	名城大付高	54.8	**200**	**90**	**110**	3(2−1)

60 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	難波　謙二	日本	羽黒工高	59.44	**222.5**	**97.5**	**125**	3(1−2)
2	金　鍾勉	韓国	水原高	58.75	**212.5**	**90**	**122.5**	2(1−1)

67.5 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	瓜田　明義	日本	串本高	66.6	**255**	**115**	**140**	5(3−2)
2	相善	韓国	南大田高	66.9	**250**	**105**	**145**	4(2−2)

75 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	朴　載	韓国	水原高	72.2	**260**	**112.5**	**147.5**	4(1−3)
2	松下　忠光	日本	糸満高	74.4	**250**	**115**	**135**	5(3−2)

82.5 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	砂岡　良治	日本	小山高	79.9	**290**	**130**	**160**	5(3−2)
2	金　吉善	韓国	徽文高	80.25	**275**	**120**	**155**	5(2−3)

90 kg級

順位	氏名	国名	学校名	体重	トータル	ベスト S	ベスト J	成功回数
1	文　天会	韓国	徽文高	89.1	**257.5**	**117.5**	**140**	4(3−1)
2	川口　俊次	日本	下関工高	86.7	**250**	**115**	**135**	3(2−1)

（注）　67.5 kg級　瓜田　特別試技　スナッチ　４回目　118 kg　高校新失敗
　　90 kg級　川田　〃　〃　〃　123 kg　高校新樹立

対戦成績　日本　**3 − 4**　韓国

◇第３回東日本学生選手権大会（個人戦）

（５４年10月１０日～１１日　中大・練習場）

52 kg級

① 金嶋幸春（拓大）　１９７.５　（９２.５－１０５）
② 浦田公貴（明大）　１７５　③ 後明賢治（日本工業）　１４７.５

56 kg級

① 西川荘吾（法大）　２００　（９５－１０５）
② 横山忠昭（拓大）　１９０　③ 佐藤文弘（拓大）　１８５

60 kg級

① 笠松敏夫（法大）　２３０　（１００－１３０）
② 福島明雄（日体大）　２３０　③ 近藤高一郎（中大）　２０２.５

67.5 kg級

① 平良朝治（法大）　２４５　（１１０－１３５）
② 園家恭一（日体大）　２３０　③ 外山久徳（中大）　２２５

75 kg級

① 菊地　寿（日体大）　２５５　（１２０－１３５）
② 工藤　聡（日大）　２５０　③ 吉田和久（日体大）　２４０

82.5 kg級

① 桜井貞実（法大）　２５２.５（１１２.５－１４０）
② 佐野利正（法大）　２４０　③ 吉田　誠（拓大）　２３５

90 kg級

① 堀内喜良（中大）　２４０　（１０５－１３５）
② 戸村　一（明大）　２１７.５　③ 北原政利（日体大）　２１０

100 kg級

① 永友達美（日体大）　２５０（１１０－１４０）
② 長谷章一（日体大）　２２５

昭和５５年度主要競技会日程表

◇国　　内

第１回全日本ジュニア選手権大会
　　４月２日(水)～３日(木)　　山梨・日大明誠高校

第２６回全国高校総体（インタハイ）
　　８月２日(土)～５日(火)　　愛媛

第２回日韓ユース大会
　　８月２４日(日)

ブロック国体
　　８月２８日(木)～３１日(日)

第４０回全日本選手権大会
　　９月６日(土)～７日(日)　　千葉

第３５回国民体育大会
　　１０月１３日(月)～１６日(木)　　栃木・小山市

第１７回全日本社会人選手権大会
　　１１月７日(金)～９日(土)　　滋賀

◇国　　際

１９８０年アジア選手権大会
　　４月２１日(月)～２６日(土)　　韓国・ソウル

第６回ジュニア世界選手権大会
　　５月２４日(土)～３１日(土)　　モントリオール

日中親善競技大会
　　５月５日（月）　　中国・南京

モスクワオリンピック
　　７月２０日(日)～３０日(水)　　モスクワ

ジンアン国際友好大会
　　１０月１０日(金)～１６日(木)　　中国

編　集　後　記

54年度の記録を載せることができましたが，十傑表に示してある前年度平均との比較は55年度の記録の予測によい資料となるでしょう。

各種国際大会の報告の中での，佐藤光正選手の試合前の心境は多かれ少なかれ，多くの選手が経験していることだろう。選手の精神的態度や経験の重要さを今さらながら感じさせられる。

林専務の記事から　日本ウエイトリフティング競技の開拓者安東熊夫氏の努力の足跡を，また履歴書ににじむ氏の人がらを偲び偉大なる先輩の御冥福をお祈りしたい。

新たに次の二名が編集に当ることになりました。よろしくお願いします。

石　川　隆　一　　千葉県八千代高等学校教諭

森　野　覚　志　　警視庁

発刊のおくれたことをお詫びします。

◇本誌掲載の訳文，調査研究等は無断転載ををお断りします。

編集委員　林・五月女・菅沼・石川・森野
発行日　55．3．25

ウエイトリフティング　No. 20
(社)日本ウエイトリフティング協会会報

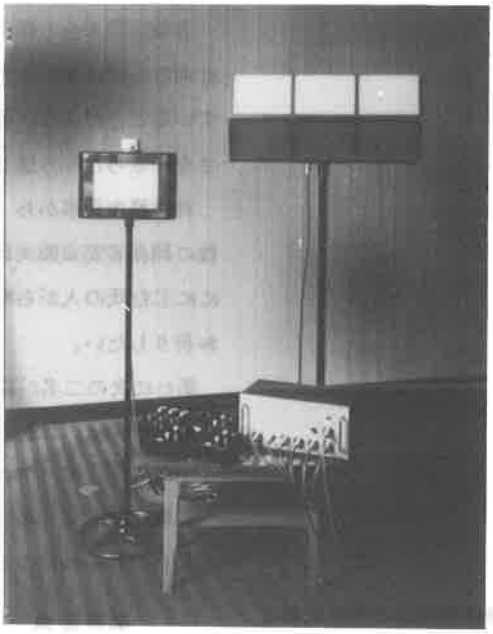
発行日　昭和55年3月25日
発行者(社)日本ウエイトリフティング協会
東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
電話　03 (467) 3111(代)
編集責任者　林　克也
印刷所　(株)サツキプロセス
栃木県河内郡河内町下岡本1996
電話　02867 (3) 1030

新規格電気判定器

ウエイトリフティング競技の試合用で新ルールに適合した電気判定器が完成しました。

従来の判定器にレェフリー合図用ランプ及びブザーとジュリー呼出し装置が連結されております。

定 価 810,000 円



（社）日本ウェイトリフティング協会指定工場

U.K 上坂鉄工所

東京都墨田区本所4丁目28番8号

電話 (03) 622局 8171 代表

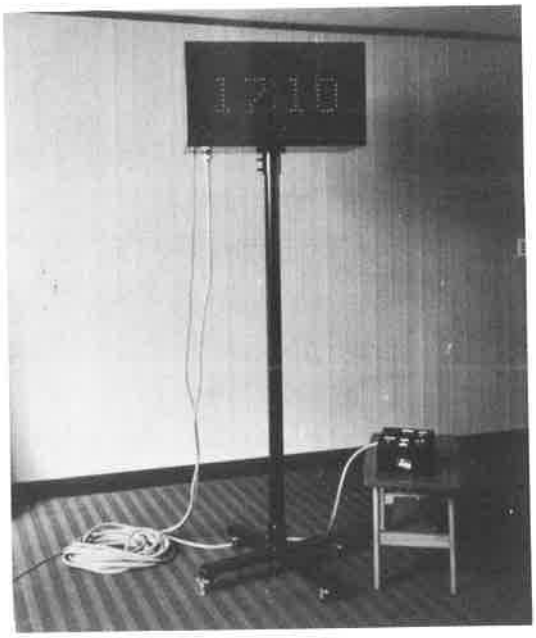
ゲームタイマー

室内競技の試合時間を正確に表示いたします。

ウエイトリフティング・ボクシング・バスケットボール・ハンドボール・レスリング・柔道の試合や，スポーツテスト等の規定時間を電光数字で表示いたします。

表示方法は 99分〜 0秒までセットした時間より 1 秒単位で減算する方法と 0 秒〜 99 分 まで加算する方法が使用出来ます。

定 価 980,000 円



（社）日本ウェイトリフティング協会指定工場

U.K 上坂鉄工所

東京都墨田区本所 4 丁目28番 8 号

電話 (03) 622局 8171 代表

ヘルスクラブ・アスレチック施設の
企画、設計、運営等……ご相談は
専門家のいる上坂へ

スポーツ器具の総合メーカー

DIA 上坂鉄工所
東京都墨田区本所4丁目28番8号
電話 (03) 622－8171～2・8096